

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定

SCSI設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate

(Windows 2000 Professional /
Windows NT 4.0セレクトブルモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』6. マニュアルの使用方法』でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows 2000またはWindows NT 4.0のセットアップ

→ 『はじめにお読みください』

本機を安全に使うための情報

→ 『安全にお使いいただくために』

Windows 2000の基礎知識、基本的な操作方法(Windows 2000を選択した場合)

→ 『Microsoft Windows 2000 Professionalクイックスタートガイド』、
またはWindows 2000のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft
Windows 2000 Professionalファーストステップガイド』

Windows NT 4.0の基礎知識、基本的な操作方法(Windows NT 4.0を選択した場合)

→ 『Microsoft Windows NT Workstationファーストステップガイド』

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンド

→ 『活用ガイド ハードウェア編』(電子化マニュアル)

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ

→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子化マニュアル)

トラブル解決方法

→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子化マニュアル)

再セットアップ方法

→ 『活用ガイド 再セットアップ編』

本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明

→ 『ハードウェア拡張ガイド』(電子化マニュアル)

ディスプレイの利用方法

→ 液晶ディスプレイ、CRTディスプレイがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルにより異なります。

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法

→ Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

ビジネスでお使いになるお客様向けのメンテナンスとサポート情報の紹介

→ 『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客様さまへ～』

パソコンに関するNECの相談窓口や受講施設、故障時のサービス網の紹介

→ 『NEC PC あんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>

はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX シリーズ Mate

MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、
MA56H/Z、MA56H/L

MA70J/S、MA55J/S、MA53H/S

MA86T/M、MA66T/M

(Windows 2000 Professional/Windows NT
4.0セレクトラブルモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。




仕様についての詳細は、「PART5 付録」をご覧ください。

2000年 5月 初版





このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号




このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

- | | |
|--|---|
|  警告 | 人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。 |
|  注意 | 人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。 |
| 
<small>感電注意</small> | 注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。 |

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

- | | |
|--|---|
|  チェック! | してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。 |
|  用語 | パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。 |
|  メモ | 利用の参考となる補足的な情報をまとめています。 |
|  参照 | マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。 |
| 2000... | Windows 2000に特有の機能や操作について説明しています。 |
| NT..... | Windows NT 4.0に特有の機能や操作について説明しています。 |

このマニュアルでは、本体の型ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。

- | | |
|---|---------|
|  | 省スペース型 |
|  | デスクトップ型 |
|  | ミニタワー型 |

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NX シリーズ Mate MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、 MA56H/L MA70J/S、MA55J/S、MA53H/S MA86T/M、MA66T/M (Windows 2000 Professional/Windows NT 4.0セレクトラブル モデル) * 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかりま す。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みくだ さい』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、 MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、 MA56H/L MA70J/S、MA55J/S、MA53H/S MA86T/M、MA66T/Mを指します。
省スペース型	次の機種を指します。 MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、 MA56H/L
デスクトップ型	次の機種を指します。 MA70J/S、MA55J/S、MA53H/S
ミニタワー型	次の機種を指します。 MA86T/M、MA66T/M
NetPCモデル	フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブがない 状態でご購入いただいたモデルです。次の機種を指します。 MA56H/Z
ディスプレイセット モデル	CRTディスプレイまたは液晶ディスプレイとセットでご購入い ただいたモデルです。
アプリケーションなし モデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェ ア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Personalモデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いた だいたモデルです。
Office 2000 Professionalモデル	Office 2000 Professionalがインストールされた状態でご購入い ただいたモデルです。
一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル	一太郎10・花子10パックおよびロータス1-2-3 2000がインス トールされた状態でご購入いただいたモデルです。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 』	【 』で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system およびMicrosoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
Windows 2000、 Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows NT、 Windows NT 4.0、 Windows NT Workstation 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft /Shogakukan Bookshelf® Basic)
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Publisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
一太郎10・花子10パック	一太郎10・花子10パック(一太郎10、花子10、三四郎9、 ATOK13)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000
スーパーディスク	SuperDisk™
Zip	Zip™

このマニュアルで使用しているイラストおよび画面

- ・このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。

技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-DJP-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」または「MDMDJPNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブが搭載されています。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows 2000またはWindows NT 4.0 および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみで使用ください。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie、NetMeeting、Outlook、PowerPoint、Bookshelf、Windows MediaおよびWindows、Windows NTのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」花子「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10バック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10バック」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

Savage4は、S3社の商標です。

nVIDIA、nVIDIAロゴ、Vantaは、nVIDIA社の商標です。

pcAnywhere は Symantec Corporation の米国における登録商標です。

Intel、Pentium、CeleronおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における商標および登録商標です。

Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジーを使用しています。

SCSI SELECT™は、Adaptec, Inc. の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

SuperDisk、SuperDiskロゴは、米国イメーション社の商標です。

Omega、Zipおよびそれらのロゴは、米国Omega社の商標です。

PrebootManagerは、Phoenix Technologies Ltdの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入いただいた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART5までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。

索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック)、用語(📖用語)、メモ(📝メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

MA53H/Sを利用する場合は、「PART3 システム設定(MA53H/Sの場合)」をご覧ください。

PART3 システム設定(MA53H/Sの場合)

MA53H/Sを利用する場合のBIOSセットアップメニューについて説明しています。

PART4 SCSI設定

Ultra SCSI インタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルのユーザー「SCSI SELECT」のSCSIの設定方法について説明しています。

PART5 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	8
このマニュアルの構成・読み方	9
目次(このページです).....	10
索引	15
本体の構成各部	21
各部の名称	22
本体正面	22
本体背面	28
電源(Windows 2000の場合).....	35
電源の状態と操作方法	35
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作).....	37
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作).....	39
休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作).....	42
電源の自動操作	44
電源(Windows NT 4.0の場合).....	46
電源の状態と操作方法	46
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作).....	47
サスペンド/レジューム(電源の手動操作).....	50
電源の自動操作	53
キーボード	54
添付されるキーボードの種類	54
使用上の注意	54
PS/2 109キーボード、USB109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード	55
USB小型キーボード	58
USB98配列キーボード	60
アプリケーションキーとWindowsキー	62
日本語入力	63
USB接続キーボードの使用上の注意	65
マウス	66
マウスについて	66
ディスプレイ	67

表示できる解像度と表示色	67
ディスプレイの省電力機能	70
別売のディスプレイを使う	71
ハードディスクドライブ	72
使用上の注意	72
ドライブ番号の割り当て	74
エラーチェックの操作手順	77
フロッピーディスクドライブ	78
使用できるフロッピーディスク	78
フロッピーディスクの内容の保護	78
スーパーディスクドライブ	79
使用できるディスク	79
ディスク内容の保護	80
ディスクのフォーマット	80
非常時のディスクの取り出し	81
Zip ドライブ	82
使用できるディスク	82
ディスク内容の保護	83
ディスクのフォーマット	83
非常時のディスクの取り出し	84
CD-ROM ドライブ	85
再生できるCDの種類	85
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)	86
非常時のディスクの取り出し	87
CD-R/RW ドライブ	88
再生できるCDの種類	88
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット	88
非常時のディスクの取り出し	89
サウンド機能	90
音量の調節	90
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	91
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	91
LANの設定	92

FAXモデムボード	97
FAXモデムボードについて	97
FAXモデムボードを使用するときの注意	97
Matセキュリティ/マネジメント機能	100
セキュリティ/マネジメント機能の概要	100
セキュリティ機能	101
障害・構成管理機能	104
運用管理機能	106
サーバ管理機能	108

システム設定 109

BIOSセットアップメニューについて	110
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	110
BIOSセットアップメニューの終了	110
工場出荷時の設定値に戻す	111
Mainの設定	112
Mainの設定	112
Advancedの設定	115
Advancedの設定	115
Securityの設定	120
Securityの設定	120
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)	125
Powerの設定	126
Powerの設定	126
Bootの設定	132
電源の設定	132
起動順位の設定	133

システム設定(MA53H/Sの場合) 135

BIOSセットアップメニューについて	136
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	136
BIOSセットアップメニューの終了	137
工場出荷時の設定値に戻す	137

Standard CMOS Setupの 設定	139
Standard CMOS Setupの 設定	139
Advanced CMOS Setupの 設定	142
Advanced CMOS Setupの 設定	142
Advanced Chipset Setupの 設定	147
Advanced Chipset Setupの 設定	147
Power Management Setupの 設定	148
Power Management Setupの 設定	148
PCI / Plug and Play Setupの 設定	155
PCI / Plug and Play Setupの 設定	155
Peripheral Setupの 設定	156
Peripheral Setupの 設定	156
Hardware Monitor Setupの 設定	158
Hardware Monitor Setupの 設定	158
Auto-Detect Hard Disksの 設定	159
Security Setupの 設定	160
Security Setupの 設定	160
パスワードの解除(パスワードを忘れた場合)	160

PART

4

SCSI設定	161
SCSI SELECTについて	162
SCSI SELECTでの 設定 が必要な場合	162
SCSI SELECTを使用するときの 注意	162
SCSI SELECTでの 設定項目	163
SCSI SELECTの 設定項目 一覧と初期 設定	163
SCSI SELECTの画面の 説明	164
SCSI SELECTの 構造	165
各画面の 説明	166

PART

5

付 録	187
機能一覧	188
型番の 読み方	188
仕様一覧	188

割り込みレベル・DMAチャンネル	201
本機のお手入れ	203
マウスのクリーニング	204
スーパーディスクドライブのクリーニング	205

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	91	CD-ROM ドライブ	25, 85
100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ ...	31	Chassis Intrusion	158
100Mbpsネットワーク接続ランプ ...	31	Cover Open Check	122
109キーボード	55	DATユニット	175
10BASE-T	91	DFP	71
10Mbpsネットワーク接続ランプ ...	31	Diskette Access	121
1Gバイト	73	DMAチャンネル	201
1Mバイト	73	DMI Event Logging	119
3.5インチフロッピーディスクドライブ ...	24	DPMS	70
98配列キーボード	60	DV15A3.....	68, 69
AC電源コネクタ	30	DV17D2	68, 69
ATOK	63	ECC機能	105
ATコマンド	97	Event Logging	119
Auto Suspend Timeout	127	Extended Memory	114
BIOS LOCK.....	101	F14T52	68, 69
BIOS Revision	114	F15R42W	68, 69
BIOSセットアップメニュー	110	F15S32	68, 69
Boot-time Diagnostic Screen... ..	114	F15T42	68, 69
BootUp Num-Lock	145	F18S1W	68, 69
CD-R/RWアクセスランプ.....	27	FAT16	82
CD-R/RW ドライブ	25, 88	FAX通信機能	97
CD-ROM	85	FAXモデムによる電源の自動操作 ...	45
CD-ROM アクセスランプ	26	FAX モデムボード	97
		FAX モデムボード機能仕様	200
		FE90	68, 69

Floppy Access Control	145	PCIスロット	33
Hard Disk Timeout	127	Peripheral Setup	156
I/O Device Configuration	116	PICROBO	108
I/O ロック	102	PIRQ[A]IRQ Active	150
IDE Drive 0 Monitoring	130	PK-CA101	32
IEC825	7	PK-CA102	32
IRQ	115	PK-FP002	101
ITU-T	97	PK-MC202	65
JIS	7	PK-MC202E	65
K56flex	97	PK-SM001	101
LAN	91	PK-SM002	101
LANDesk(R)Service	119	PK-SM003	101
LAN の設定	92	PK-UP001	65
LAN ボード	30, 91	PK-UP004E	65
LAN ボード機能仕様	199	PK-UP008	65
Local Bus IDE adapter	118	Plug & Play O/S	115
MIDI/Joystick コネクタ	34	Plug and Play Aware O/S	155
MS-IME	63	PME	122
NetPC	5	Power Savings	126
Network Boot Setting	121	Power Button Function	152
Nキーロールオーバー	54	Preboot Management	104, 119
OFF state Alert II	104	Pri Master	140
Office 2000	63	Pri Slave	140
OnBoard AC'97 Audio	157	Primary Master	113
Password Check	160	Primary Slave	113
PC-11-1988	7	PS/2 接続キーボードコネクタ	33
PC-9800	32, 79	PS/2 接続マウスコネクタ	33
PC-M-SCUWS2	162	QuickBoot	118, 143
PCI Bus Monitoring	131	QuickBoot Mode	118
PCI Configuration	115	Removable Devices	133

Restore On AC/Power Loss ...	132
Resume By PME From Soft Off ...	151
Resume On Modem Ring	130
Ring Resume From Soft Off ...	151
RS-232C 変換アダプタ	32
SCSI SELECT	162, 163
SCSI インタフェースボード	162
Sec Master	141
Sec Slave	141
Secondary Master	113
Secondary Slave.....	113
Security Mode	121
Set Supervisor Password	120
Set User Password	120
Sound	118
Suspend Time Out(Minute)...	149
System backup reminder	122
System Memory.....	114
System Switch	127
Ultra SCSI	162
Ultra SCSI インタフェースボード (Wide 対応).....	162
USB ケーブルフック	22, 27
USB コネクタ	27, 30
USB ハブ	65
VCCI	7
VESA	70, 71
Virus check reminder	122
Windows キー	56, 58, 62
Zip ドライブ	27, 82

ア行

アース端子	32
アナログRGB コネクタ	31
アプリケーション キー ...	56, 59, 62
イラスト	6
ウイルス	102
ウィンドウ アクセラレータ	67
運用管理機能	106
液晶 ディスプレイ	67
エラー チェック	77
エンドユーザ 管理	103
オフ	71
音量の 調節	90

カ行

解像度	67
書き込み 禁止	78, 83
型番の 読み方	188
カバー センサー	103
カバーを ロック	102
画面	6
キー ボード	54
キー ロールオーバー	54
起動 順位	133
休止 状態	42
筐体 ロック	32, 102
緊急 イジェクトホール	84
クライアント モニタリング	105
クリーニング キット	205

ケーブルストップパ	28, 29, 34
工場出荷時の設定値	111
高調波電流規制	7
小型キーボード	58
コンプリートオフ	71

サ行

サーバ管理	108
サウンド機能	90
サスペンド	71
サスペンド状態	46
資源管理	105
自己診断画面	114
シャットダウン	48
瞬時電圧低下	7
状態監視	105
省電力	70
省電力機能	70
シリアルコネクタ	32
スーパーディスクドライブ	24, 79
スキップセクタ	73
スクロールボタン	66
スクロールロックキー	55, 58
スタビライザ	27
スタンバイ	71
スタンバイ状態	35
スマートカード	101
ソフトウェアパワーオフ機能	105

タ行

タイマ	45, 53
通風孔	32
データ通信機能	97
ディスクアクセスランプ	25
ディスクイジェクトボタン	24
ディスクトレイイジェクトボタン	27
デフォルト値	111
テンキー付きキーボード	55
電源	35, 46, 132
電源スイッチ	24
電源ランプ	24
電波障害	7
電話回線用モジュラーコネクタ	31
電話機用モジュラーコネクタ	31
盗難防止	32
ドライブ番号	74

ナ行

内蔵スピーカボリューム	25
日本語入力	63
ニューメリックロックキー	56, 59
認証番号	7
ネットワーク通信/接続ランプ	31

ハ行

ハードディスクアクセスランプ	24
ハードディスクドライブ	72
ハードディスクパスワード	102, 123

ハイパワーデバイス	65
バケット	107
バックアップ	72
ハブ	91
パラレルコネクタ	32
表示色	67
ファイルベイカバー	27
フォーマット	80, 82, 83
復帰	36, 37
不良セクタ	73
プリンタインターフェース変換アダプタ	32
フロッピーディスクドライブ	78
フロントマスク	27
ヘッドホン端子	25, 26
ヘッドホンボリューム	26
本機	5
本機のお手入れ	203
本体	5

マ行

マイクロホン端子	30
マウス	66
マネジメント機能	100
マルチポートリピータ	91
ミニDIN6ピン	33
ミニジャック	30

ヤ行

輸出	8
----	---

ラ行

ライトプロテクト	78
ライトプロテクトノッチ	78, 80
ライン出力端子	30
ライン入力端子	30
リード/ライトプロテクト	83
リモートコントロール	106
リモートパワーオン機能	45, 53, 107
リンクケーブルの接続	91
ルーフカバーオープン検知	103
レーザ安全基準	7
ローパワーデバイス	65
漏洩電流自主規制	7

ワ行

割り込みレベル	201
---------	-----

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称	22
電源(Windows 2000の場合).....	35
電源(Windows NT 4.0の場合).....	46
キーボード	54
マウス.....	66
ディスプレイ	67
ハードディスクドライブ	72
フロッピーディスクドライブ	78
スーパーディスクドライブ	79
Zipドライブ	82
CD-ROMドライブ	85
CD-R/RWドライブ	88
サウンド機能	90
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	91
FAXモデムボード.....	97
Mateセキュリティ/マネジメント機能	100

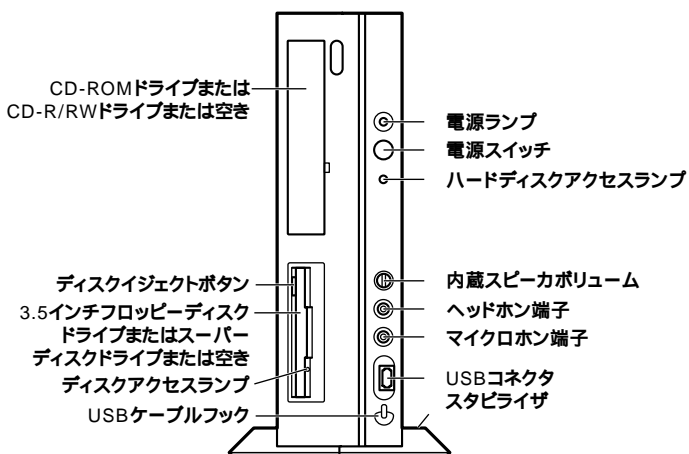
各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面

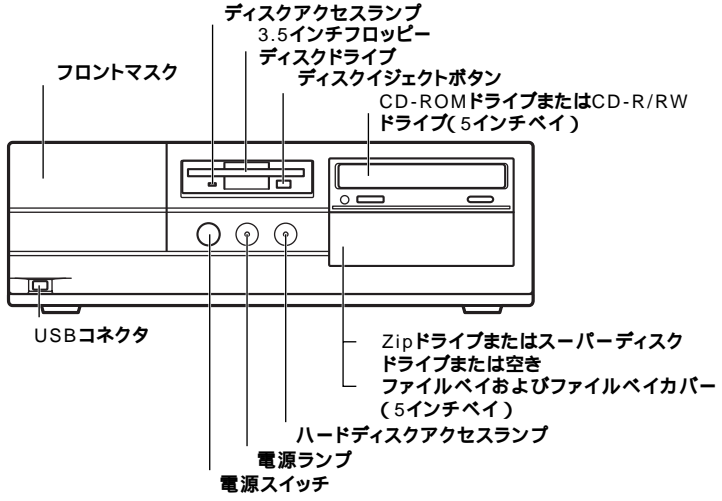


MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/Lの場合

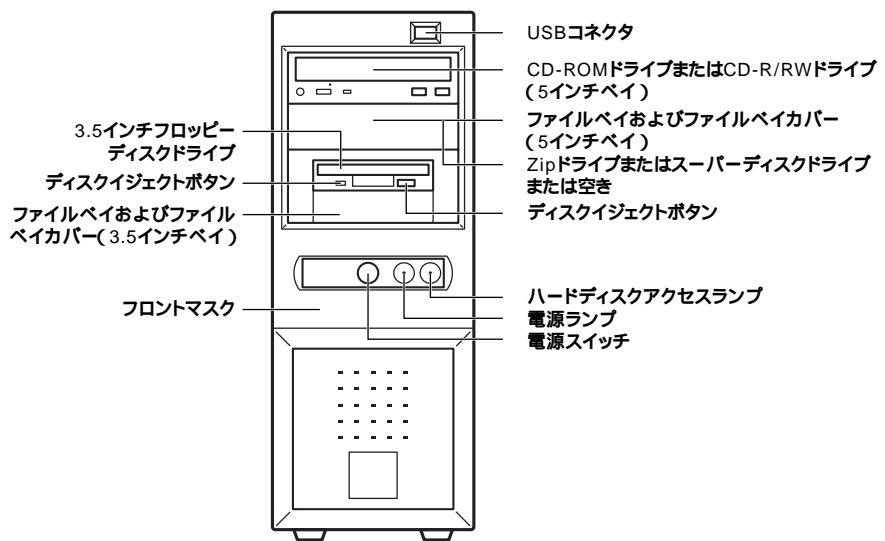




MA70J/S、MA55J/S、MA53H/Sの場合



MA86T/M、MA66T/Mの場合



電源スイッチ(省スペース型、デスクトップ型:⏻) (ミニタワー型:⏻/⏻)

- 2000... 本体の電源の状態を変更(入れる/切る、スタンバイ/スタンバイからの復帰、休止状態/休止状態からの復帰)するスイッチです。「電源(Windows 2000の場合)」(P.35)
- NT..... 本体の電源の状態を変更(入れる/切る、サスペンド/レジューム)するスイッチです。「電源(Windows NT 4.0の場合)」(P.46)

電源ランプ(省スペース型、デスクトップ型:Ⓛ) (ミニタワー型:⏻/⏻)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ(サスペンド)状態のときに点灯します。「電源(Windows 2000の場合)」(P.35)「電源(Windows NT 4.0の場合)」(P.46)

ハードディスクアクセスランプ(Ⓛ)

IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、追加ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ(セカンダリマスタ)、スーパーディスクドライブまたはZipドライブ(セカンダリスレーブ)があります。なお、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ、スーパーディスクドライブの種類によっては、点灯しないことがあります。

「ハードディスクドライブ」(P.72)「スーパーディスクドライブ」(P.79)「Zipドライブ」(P.82)「CD-ROMドライブ」(P.85)「CD-R/RWドライブ」(P.88)

- ✔ **チェック!** ハードディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

3.5インチフロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。

「フロッピーディスクドライブ」(P.78)

さらにスーパーディスクドライブでは、スーパーディスクに大容量のデータを書き込むことができます。

「スーパーディスクドライブ」(P.79)

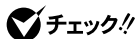
NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクやスーパーディスクを取り出します。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクやスーパーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。



ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。



内蔵スピーカボリューム(🔊)

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。「サウンド機能」(P.90)



マイクロホン端子(🎤)

ミニプラグのマイクロホンを接続します。「サウンド機能」(P.90)

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたは空き

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。

「CD-ROMドライブ」(P.85)

さらにCD-R/RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。「CD-R/RWドライブ」(P.88)

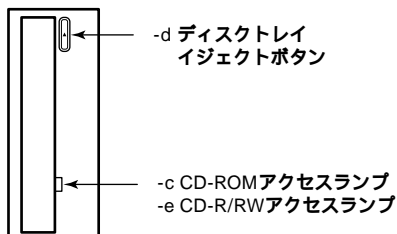
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを取り外して、他のファイルベイ用内蔵機器に交換することができます。「ハードウェア拡張ガイド」



省スペース型の場合

CD-ROMドライブおよびCD-R/RWドライブ拡大図

NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

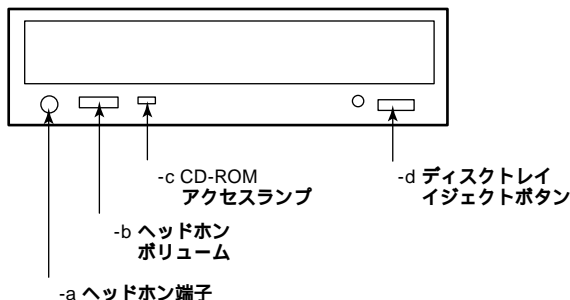




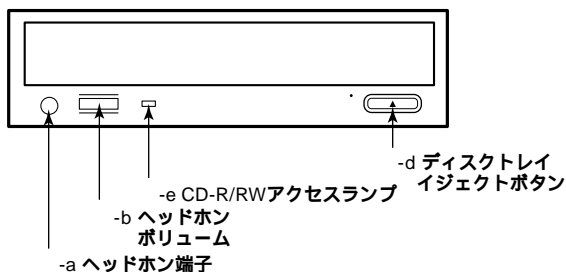
デスクトップ型、ミニタワー型の場合

CD-ROM ドライブ拡大図

機種によってボタン、ランプなどの位置が異なる場合があります。



CD-R/RW ドライブ拡大図



-a ヘッドホン端子()

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽CDの再生音だけです。

-b ヘッドホンボリューム

CD用ヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

-c CD-ROM アクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

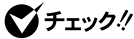
CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

-d ディスクトレイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

-e CD-R/RWアクセスランプ

CD-R/RWドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

CD-R/RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

USBコネクタ(・⇄)

USB機器を接続します。「キーボード」(P.54)

NT..... NEC製のUSB接続キーボードを接続できます。液晶ディスプレイセットモデルの場合は、液晶ディスプレイのUSBハブを接続できます。



ファイルベイおよびファイルベイカバー

ファイルベイ用内蔵機器を取り付けます。ファイルベイにはサイズの違いにより、3.5インチベイ、5インチベイの2種類があります。

ファイルベイに、リムーバブルメディア用の内蔵機器を取り付けるときには、このファイルベイカバーを取り外し、別売のファイルベイカバーを取り付けます。



参照

本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

Zipドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

Zipドライブは、Zipディスクに大容量のデータを読み書きすることができます。「Zipドライブ」(P.82)

スーパーディスクドライブは、3.5インチフロッピーディスクおよびスーパーディスクに読み書きすることができます。

「スーパーディスクドライブ」(P.79)

フロントマスク

本体前面のカバーです。



スタビライザ

本体を安定させるための脚です。



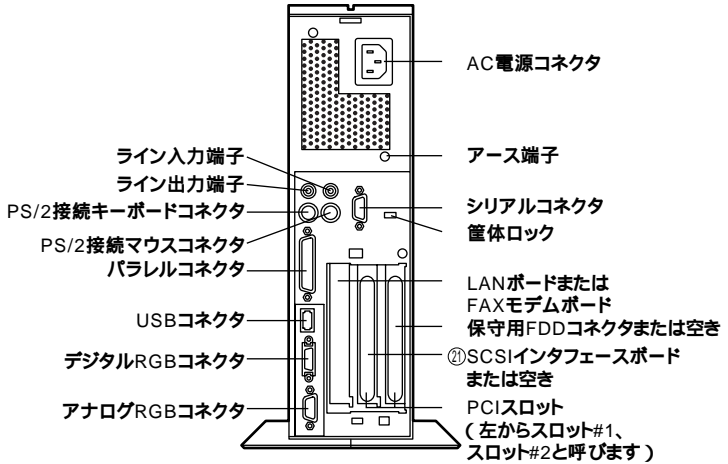
USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

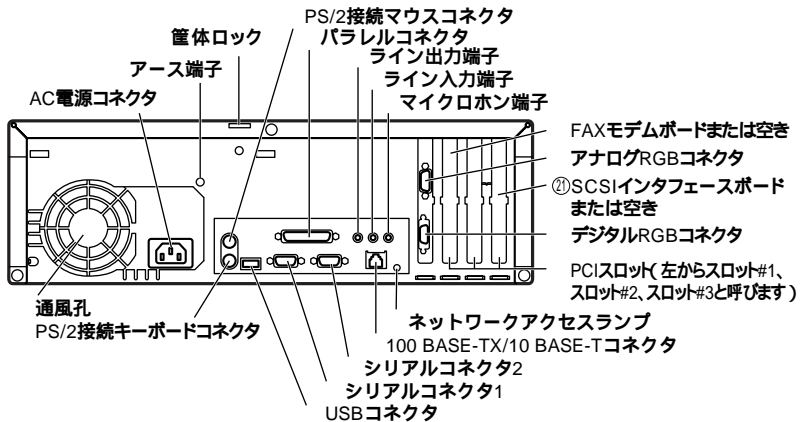
本体背面



MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/Lの場合

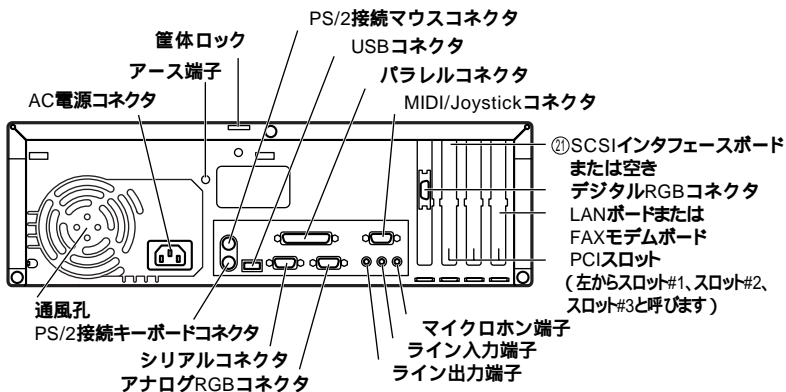


MA70J/S、MA55J/Sの場合

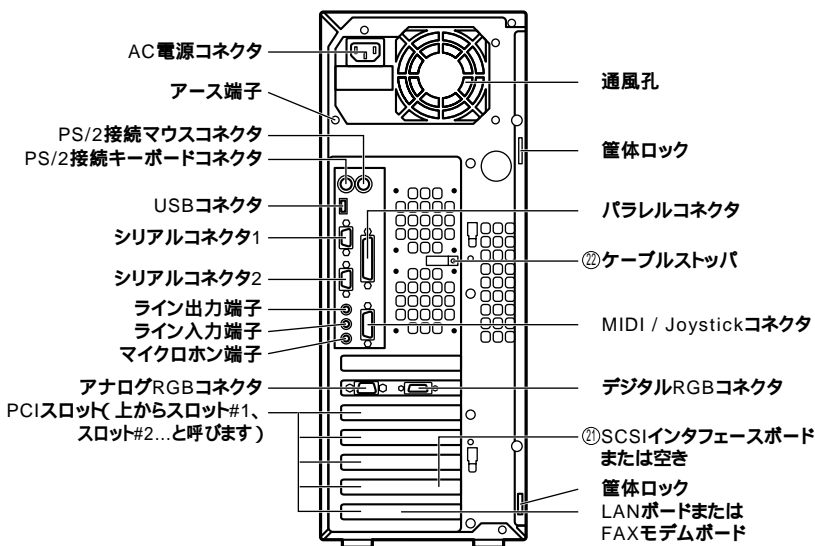




MA53H/Sの場合



MA86T/M、MA66T/Mの場合



AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USBコネクタ(USB)

USB機器を接続します。「キーボード」(P.54)

NT..... NEC製のUSB接続のキーボードを接続できます。液晶ディスプレイセットモデルの場合は、液晶ディスプレイのUSBハブを接続できます。



マイクロホン端子(ミニジャック)

市販のマイクロホンを接続します。

ライン入力端子(ミニジャック)

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

ライン出力端子(ミニジャック)

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

LANボードまたはFAXモデムボードまたは空き

LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。

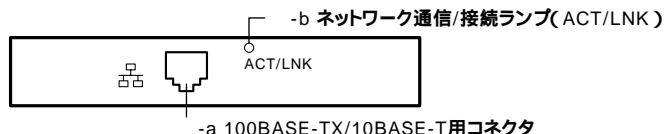
LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.91)

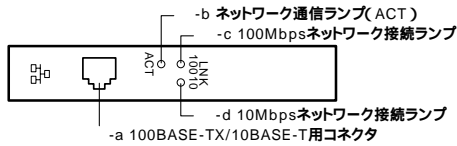
FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXの送受信などを行うことができます。「FAXモデムボード」(P.97)

LANボード拡大図

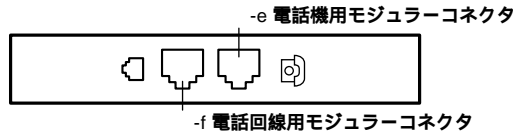
MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA86T/M、MA66T/Mの場合



MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/L、MA53H/Sの場合



FAXモデムボード拡大図



-a 100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(□)

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

-b ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LNK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

-c 100Mbpsネットワーク接続ランプ(LNK 100)

100Mbpsでネットワークが接続されていて、ハブ(マルチポートリピータなど)からリンクパルスを受信すると点灯します。

-d 10Mbpsネットワーク接続ランプ(LNK 10)

10Mbpsでネットワークが接続されていて、ハブ(マルチポートリピータなど)からリンクパルスを受信すると点灯します。

-e 電話機用モジュラーコネクタ(☎)

電話機を接続します。

-f 電話回線用モジュラーコネクタ(☎)

電話回線を接続します。

アナログRGBコネクタ(□)

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。

「ディスプレイ(P.67)

デジタルRGBコネクタ()


デジタルインタフェースのディスプレイを接続します。

「ディスプレイ」(P.67)

-  **チェック!** アナログRGBコネクタとデジタルRGBコネクタは、同時に利用できません。


パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

-  **チェック!**
- ・ PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。
 - ・ パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。

シリアルコネクタ1,2(,) またはシリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。

-  **チェック!**
- ・ PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
 - ・ RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用できます。なお、MA53H/Sの場合はRS-232C変換アダプタは利用できません。
 - ・ 周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。また、隣り合ったコネクタに同時に変換アダプタを接続すると、変換アダプタ同士がぶつかり合って接続できない場合があります。

筐体ロック()

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.100)

アース端子()

アース線を接続します。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

PCIスロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入するスロットです。モデルによっては、LANボード、FAXモデムボード、SCSIインタフェースボードなどが挿入されています。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード (P.91)」「FAXモデムボード (P.97)」「PART4 SCSI設定」

参照▶ 本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。「キーボード (P.54)」

PS/2接続マウスコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス(ミニDIN6ピン)を接続します。

「マウス (P.66)」



MA56H/Z

保守用FDDコネクタまたは空き

NetPCモデルの場合、再セットアップするために別売の外付けのフロッピーディスクドライブを接続します。



MA70J/S、MA55J/S

ネットワークアクセスランプ

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点灯します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。



MA70J/S、MA55J/S

100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ

別売の専用ケーブル(リンクケーブル)を使って、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続します。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード (P.91)」



MA53H/S、MA86T/M、MA66T/M

MIDI/Joystick コネクタ

MIDI楽器やジョイスティックなどの機器を接続します。このコネクタにはディスプレイを接続しないでください。発火の原因になります。

④ SCSI インタフェースボードまたは空き

Ultra SCSI インタフェースボード (Wide 対応) が内蔵されたモデルは、SCSI インタフェースを持つ機器と接続できます。

「PART4 SCSI設定」『ハードウェア拡張ガイド』



② ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。

『ハードウェア拡張ガイド』

電源(Windows 2000の場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。



電源が切れている状態

Windows 2000を終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯
休止状態	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す

電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 2000の終了メニューから「シャットダウン」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 2000の終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」「電源オプション」の「詳細」で設定する
Timer-NXを利用する

スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 2000の終了メニューから「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」「電源オプション」の「詳細」で設定する
Timer-NXを利用する


休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する


電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、次の手順があります。

 **チェック!!** 電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

- 1** フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2** ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる
- 3** 本体の電源スイッチを押す

 **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBを2枚増設した場合、約4秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

参照 ▶ 「電源オプション」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

✓チェック! 電源投入後、Windows 2000の起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

「スタート」ボタンによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 3 「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。
- 4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

電源スイッチによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 電源スイッチを押す
自動的に電源が切れます。

⚠注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

- 3 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

メモ

ソフトウェアのエラーなどで、Windows 2000の操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A』をご覧ください。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、「電源オプション」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

- ✓チェック!! スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

△注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、次の方法があります。なお、本機をキーボードまたはマウスによってスタンバイ状態から復帰するには、「キーボード」または「マウス」の設定を変更する必要があります。

 「キーボード」または「マウス」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

入力デバイスによる方法

- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき
スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にする
ときの作業中のデータは失われます。
- ・電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
 - ・停電が起きたとき
 - ・電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出ししたり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中
- ・ Windows 2000の起動処理中、終了処理中
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

その他の注意

- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ SCSIインタフェースボードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。
- ・ スタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。

スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されな
かったことを表しています。

- ・アプリケーションが動作しない
- ・スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復
帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機
能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できな
かったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ラ
ンプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメ
ニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要
な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電
力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって
休止状態/休止状態からの復帰を行うには、「電源オプション」の設定を変
更する必要があります。

参照 「電源オプション」設定の変更 Windows 2000のヘルプ

休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があり
ます。

「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「休止状態」を選択して「OK」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、
休止状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

休止状態から復帰する

休止状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

- 1 電源スイッチを押す
Windows 2000が起動し、前回休止状態機能を使用して電源を消したときと同じ状態に復元されます。

休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中

- ・ 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中
- ・ Windows 2000の起動処理中、終了処理中
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

その他の注意

- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ 休止状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- ・ SCSIインタフェースボードを使用している場合、接続されている機器によって正しく休止状態から復帰できない場合があります。このような場合は、休止状態にしないでください。

休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ 休止状態にする前の内容に復帰できない
- ・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ、LAN(ローカルエリアネットワーク)、回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック!

タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。

タイマ

「電源オプション」の「システムスタンバイ」
「コントロールパネル」 「電源オプション」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約20分でディスプレイの電源を、30分でハードディスクドライブの電源を切るように設定されています。

参照 「電源オプション」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

「電源オプション」の「システム休止状態」
「コントロールパネル」 「電源オプション」の「システム休止状態」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的に休止状態にすることができます。

参照 「電源オプション」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

Timer-NX
「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」Timer-NXのオンラインヘルプ

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンのスタンバイ状態または休止状態から復帰する機能です。

参照 「Mateセキュリティ/マネジメント機能」運用管理機能「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.107)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態または休止状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。

参照 FAXモデムのマニュアル『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加「Timer-NX」Timer-NXのオンラインヘルプ

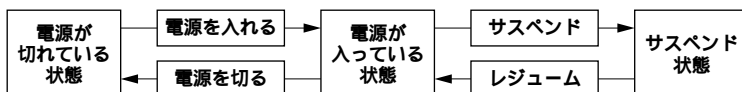
電源(Windows NT 4.0の場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「サスペンド状態」の3つの状態があります。



電源が切れている状態

Windows NTを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

サスペンド状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、レジュームする(サスペンド状態から復帰する)ときは素早く元の状態に戻すことができます。

電源の状態による電源ランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
サスペンド状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows NTの終了メニューから「シャットダウンする」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

サスペンド状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する


レジューム(サスペンド状態から復帰)する

電源の操作方法
電源スイッチを押す

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、次の手順があります。

 **チェック!!** 電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

- 1 フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する

2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる

3 本体の電源スイッチを押す

- ☑ **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBに増設した場合、約4秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

- ☑ **チェック!!** 電源投入後、Windows NTやアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。また、マウスポインタが砂時計表示されていないこと、およびディスクアクセスランプなどが点灯していないことを確認してから電源を切ってください。

「スタート」ボタンによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック

3 「シャットダウンする」または「コンピュータをシャットダウンする」をクリック

4 「OK」ボタンまたは「はい」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れます。電源スイッチを押さないでください。「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ソフトウェア電源断」の「全般」タブで「シャットダウン後の自動電源断を有効にする」をクリックしてチェックを外した場合は、自動で電源は切れず「コンピュータのシャットダウン」画面が表示されますので、電源スイッチを押して電源を切ってください。

5 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

電源スイッチによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 電源スイッチを押す
本体の電源は自動的に切れます。

△注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

「スタート」ボタン「コントロールパネル」「ソフトウェア電源断」の「サービス」タブで「終了確認ダイアログを表示する」をクリックしてチェックを付けた場合は、「Windows NTのシャットダウン」画面が表示されますので「はい」ボタンをクリックして電源を切ってください。「サービス」タブのパラメータ欄がグレー表示で入力できない場合は、電源スイッチによるシャットダウンはできません。「スタート」ボタン「シャットダウン」でシャットダウンを行ってください。

- 3 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

メモ

ソフトウェアのエラーなどで、Windows NTの操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A』をご覧ください。

サスペンド/レジューム(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、サスペンド状態にすることによって電力の消費を節約することができます。

なお、本機を電源スイッチによってサスペンド/レジュームするには、システムスイッチの変更が必要になります。

参照 システムスイッチの変更 「PART2 システム設定」Powerの設定」(P.126) MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定(MA53H/Sの場合)」 「Power Management Setupの設定」(P.148)

チェック!! サスペンド/レジュームする操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

サスペンド状態にする

電源が入っている状態から手動でサスペンド状態にするには、次の手順があります。

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、サスペンド状態になります。

△注意

電源スイッチを押してサスペンド/レジュームをする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

サスペンド状態から復帰(レジューム)する

サスペンド状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、サスペンド状態から復帰(レジューム)します。

△注意

電源スイッチを押してサスペンド/レジュームをする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

サスペンド/レジュームするときの注意

サスペンド/レジューム機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、サスペンド状態にするときの作業中のデータが失われたり、復元できないことがあります。

サスペンド状態にする前の内容が失われるとき

サスペンド状態のときに次のことが起きると、サスペンド状態にするときの作業中のデータは失われます。

- ・電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- ・停電が起きたとき
- ・電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

サスペンド状態からの復帰が保証されないとき

サスペンド状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または復元中に次のようなことを行うと、サスペンド状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・フロッピーディスクやCD-ROMを取り出ししたり、交換したとき
- ・LANケーブルの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき

また、次のような状態でサスペンド機能を起動しても、サスペンド状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・プリンタへ出力中のとき
- ・音声または動画を再生しているとき
- ・フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・サスペンド機能に対応していないアプリケーションを使用中
- ・サスペンド機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中
- ・Windows NTの起動処理中、終了処理中
- ・通信ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき
- ・サスペンド状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。従って、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、サスペンド状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、サスペンド機能を使用してください。
- ・本機にNEC製キーボード以外のキーボードを接続しているとき

その他の注意

- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、サスペンド状態にしてください。通信状態のままサスペンドすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにサスペンド状態にした場合は、レジュームに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にサスペンド状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。サスペンド状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ サスペンド中にUSBキーボード/マウスの抜き差しを行わないでください。誤って抜き差しした場合、レジューム後、そのUSBキーボード/マウスが使用できなくなります。その場合は、「キーボード」の「使用上の注意」(P.54)をご覧ください。

レジューム機能が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、レジューム機能が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
 - ・ サスペンド状態にする前の内容を復元できない
 - ・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもレジュームされない
- このような状態になるアプリケーションを使用中には、サスペンド/レジューム機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押してもレジュームできなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)のアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューの「Power」の「Auto Suspend Timeout」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスなどが無い場合、自動的にサスペンド状態にすることができます。

参照▶ 「PART2 システム設定」Powerの設定 (P.126)
MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定(MA53H/Sの場合)」Power Management Setupの設定 (P.148)

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切ることができます。サスペンド/レジュームを行うことはできません。

参照▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」Timer-NXのヘルプ

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。サスペンド/レジュームを行うことはできません。

参照▶ 「Mateセキュリティ/マネジメント機能」運用管理機能「リモートパワーオン機能」(P.107)

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。キーボードの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「キーボード」で行ってください。

参照 Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列
	USB小型キーボード		109準拠
	USB98配列キーボード		98配列

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効になる機能です。ただし、本機のキーボードは、疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや、有効にならないことがあります。

USB接続キーボードの抜き差し

2000...電源が入った状態でUSB接続キーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード)を抜き差しする場合、USB接続キーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続キーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windows 2000を再起動してください。

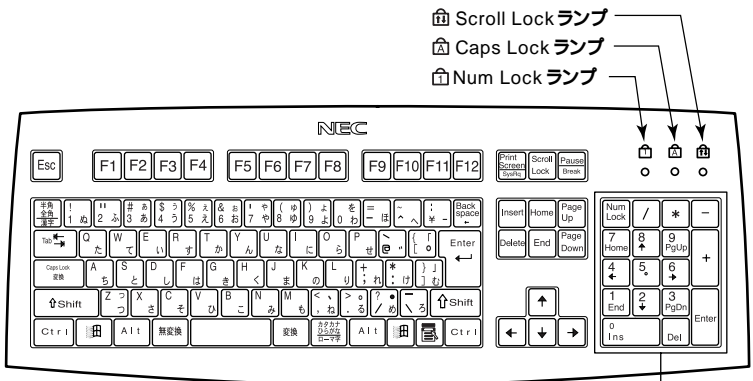
NT..... サスペンド中には、USB接続のキーボード/マウスを抜き差しを絶対に行わないでください。誤って行ってしまった場合、レジューム後、USB接続のキーボード/マウスが使用できなくなります。このようなときは、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。この方法で強制的に電源を切った場合、保存していないデータは消えてしまいます。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード

キーの名称


キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。()内はテンキー付き小型キーボードの場合のキーです。

PS/2 109キーボード、USB109キーボードの場合



テンキー

- Esc : エスケープキー
- F1 ~ F12 : ファンクションキー
- Print Screen / SysRq : プリントスクリーンキー
- Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。「キーをロックする (P.57)」

 : ポーズ/ブレイクキー

 : 半角/全角/漢字キー


 : タブキー


 : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.57)

 : シフトキー

 : コントロールキー

 : Windowsキー

 : アプリケーションキー


WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。


 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー


 : 変換キー()


 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー


 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

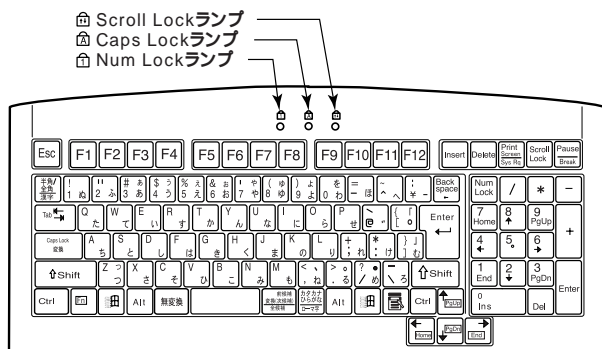
 : カーソル移動キー

(   )

 : ニューメリックロックキー

一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.57)

テンキー付きPS/2小型キーボードの場合



キーの名称については「PS/2 109キーボード、USB109キーボードの場合」をご覧ください。

キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

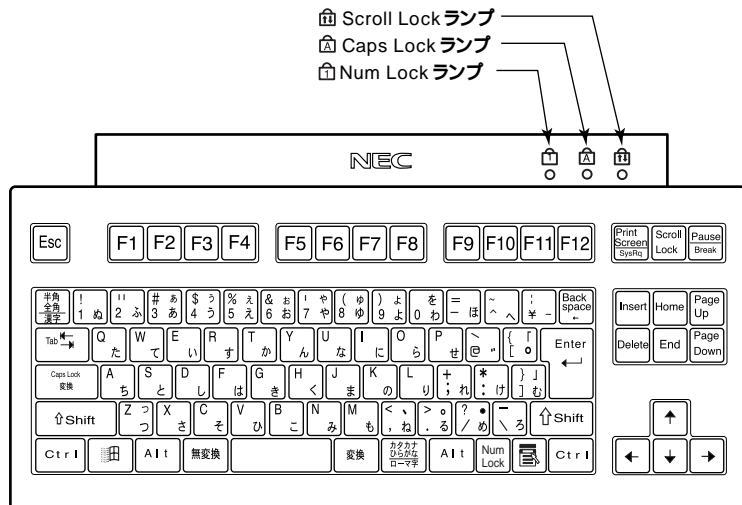
	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

【Fn】を押しながら他のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

USB小型キーボード


キーの名称


キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。




 : エスケープキー

 ~  : ファンクションキー

 : プリントスクリーンキー

 : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.57)

 : ポーズ/ブレイクキー

 : 半角/全角/漢字キー

 : タブキー


 : キャプスロック/英数キー


【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.57)

 : シフトキー


 : コントロールキー

 : Windowsキー


 : アプリケーション キー
WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー


 : 変換キー


 : カタカナひらがな/ローマ字キー


 : エンターキー

 : バックスペースキー


 : インサートキー


 : デリートキー


 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.57)

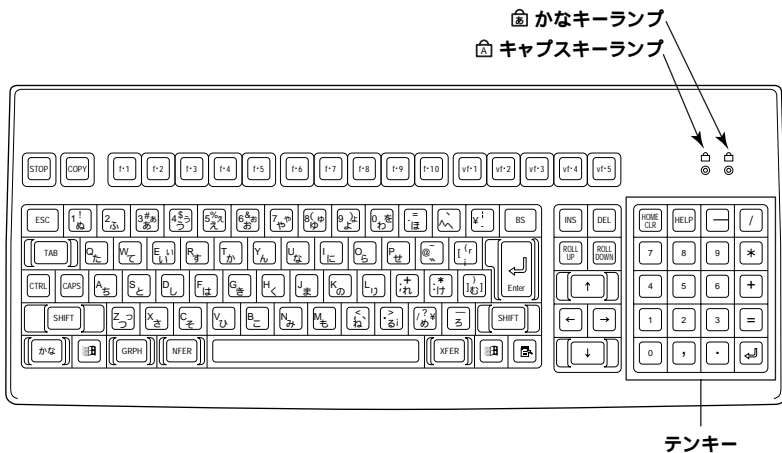
キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.57)をご覧ください。

USB98配列キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



Ⓐ : キャプスキーランプ
【CAPS】を押すと点灯します。

㊦ : かなキーランプ
【かな】を押すと点灯します。

CAPS : キャプスキー

かな : かなキー

COPY : コピーキー

f.1 ~ **f.10** **vf.1** ~ **vf.2**
: ファンクションキー

vf.3 (Num Lock-側面文字)
: Windows NT上では、Num Lockとして動作します。

vf.4 (Scroll Lock-側面文字)
: Windows NT上では、Scroll Lockとして動作します。

vf.5 (半角/全角-側面文字)
: Windows NT上では、半角/全角として動作します。

BS : バックスペースキー
















INS : インサートキー

DEL : デリートキー


HOME CLR : ホームクリアキー

HELP : ヘルプキー

(End:エンドキー)

 : ロールアップキー (PgDn:ページダウンキー)	 : エクスファーキー
 : ロールダウンキー (PgUp:ページアップキー)	 : スペースキー
 : カーソルキー	 : エヌファーキー
 : リターンキー (Enter:エンターキー)	 : グラフキー (Alt:オルトキー)
 : シフトキー	 : コントロールキー
 : Windowsキー	 : タブキー
 : アプリケーションキー	 : エスケープキー
	 : ストップキー

Windowsによって機能を
割り当てることができま
す。

 **チェック!!** 下記は、使用しているモードによって動作が異なりますので注意してください。

キー入力	Windows	DOSモード/DOSプロンプト
半角カナ入力	可能	不可
テンキー【=】、【,】	可能	不可
【`】X【SHIFT】+【^】	【'】	【`】
【~】X【SHIFT】+【_】	【~】	【~】
【ろ】	入力なし	【¥】
日本語入力切り替え	【CTRL】+【XFER】または【XFER】	【GRPH】+【vf.5】
【Num Lock】切り替え	不可	可能
【vf.3】	【vf.3】	【Num Lock】
【vf.4】	【vf.4】	【Scroll Lock】
【vf.5】	【vf.5】	【半角/全角】
【CAPS】切り替え	【CAPS】	【SHIFT】+【CAPS】

アプリケーションキーとWindowsキー

アプリケーションキーとWindowsキーは、Windowsで使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。












アプリケーションキー()

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windowsキー()

Windowsキーだけを押すと、「スタート」メニューを表示します。

Windowsキー を押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

-  + R 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
-  + M 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
-  +  + M  + M でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
-  + F1 Windowsのヘルプを起動する
-  + F ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
-  +  + F コンピュータを検索するウィンドウを表示する
-  +  タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

2000... Windows 2000の場合

日本語入力プログラム	アプリケーションなしモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME2000			
ATOK13			

- : インストールされており、工場出荷時に標準で使用される設定になっている日本語入力プログラム
- : インストールされている日本語入力プログラム

NT..... Windows NT 4.0の場合


日本語入力プログラム	アプリケーションなしモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME97			
MS-IME2000			
ATOK13			

- : インストールされており、工場出荷時に標準で使用される設定になっている日本語入力プログラム
- : インストールされている日本語入力プログラム


日本語入力のオン/オフ


日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード、USB109キーボード、USB小型キーボードの場合

- ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する

USB98配列キーボードの場合

- ・ 【CTRL】を押しながら【XFER】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する

 **チェック!!** NEC 98 Layout Keyboard(XFER)を設定した場合、MS-IME 2000で【XFER】で日本語入力をOFFにすることはできません。【XFER】で日本語入力をOFFにできるようにするには、「Microsoft IME 2000詳細プロパティ」の「キーの設定」で、【変換】の「入力/変化済み文字なし」の設定を「再変換」から「-」に変更してください。

日本語変換の手順

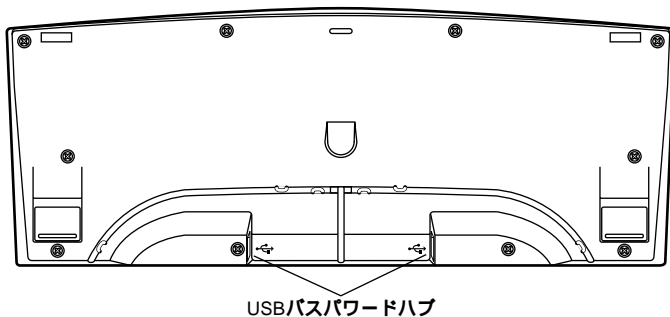
日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEまたは、ATOK13のヘルプをご覧ください。

 **メモ**

日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続キーボードの使用上の注意

2000...USB接続キーボード(USB 109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



電源容量による接続の制限

USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続キーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られません。

メモ

ハイパワーデバイス: 接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-UP001 (フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC202 (デジタルビデオカメラ)

PK-MC202E(デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス: 接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-UP004E、PK-UP008(バーコードリーダー)

- USB接続キーボードのUSBハブは、USBバスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
- USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

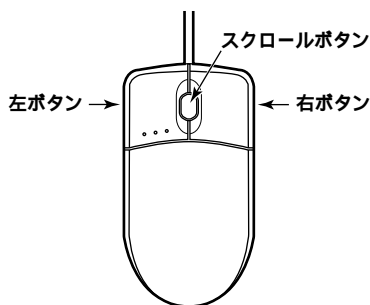
マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。マウスの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「マウス」で行ってください。

参照 ▶ Windowsのヘルプ


マウスについて


本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。


スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

キーボードに添付されるスクロールボタン付きマウスには、スクロールボタンがあります。通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときに  (スクロールアイコン) が表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

 **チェック!** スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。


ディスプレイ


本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使用の用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。ディスプレイの設定については、「スタートボタン」「設定」「コントロールパネル」の「画面」で行ってください。

 Windowsのヘルプ

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度、表示色、水平走査周波数、垂直走査周波数の関係は次の表の通りです。

-  **チェック!!**
- ・ リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定は機種によっては「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。
 - ・ 使用するディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)の場合は不要です。
 - ・ デジタルインタフェースを持つディスプレイとアナログインタフェースを持つディスプレイを同時に利用することはできません。
 - ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。
 - PC-KM212
 - PC-KM174

 **参照** 液晶ディスプレイ調整ツール 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/L、
MA53H/S

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応						
解像度 [ドット]	表示色	水平走査	垂直走査	15型	17型	19型	14型	15型	15.4型	18型
		周波数 [KHz]	周波数 [Hz]	CRTディスプレイ (DV15A3)	CRTディスプレイ (DV17D2)	CRTディスプレイ (FE90)	デジタル液晶ディスプレイ (F14T52)	デジタル液晶ディスプレイ (F15S32) (F15T42)	液晶ディスプレイ (F15R42W)	液晶ディスプレイ (F18S1W)
640×480	256色	31.5	60							
	65,536色	37.5	75				×	×		
	1,677万色	43.3	85				×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60							
	65,536色	46.9	75				×	×		
	1,677万色	53.7	85				×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60							
	65,536色	60.0	75				×	×		
	1,677万色	68.7	85				×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×			×	×		
	65,536色	80.0	75	×	×		×	×		
	1,677万色	91.1	85	×	×		×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×		×	×	×	×
		93.8	75	×	×		×	×	×	×
		106.3	85	×	×	×	×	×	×	×

デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。

MA70J/S、MA55J/S、MA86T/M、MA66T/M

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応						
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数	垂直走査 周波数	15型 CRTディ スプレイ (DV15A3)	17型 CRTディ スプレイ (DV17D2)	19型 CRTディ スプレイ (FE90)	14型 デジタル 液晶ディ スプレイ (F14T52)	15型 デジタル 液晶ディ スプレイ (F15S32) (F15T42)	15.4型 液晶ディ スプレイ (F15R42W)	18型 液晶ディ スプレイ (F18S1W)
		[KHz]	[Hz]							
640×480	256色	31.5	60				1	1		
	65,536色	37.5	75				×	×		
	1,677万色	43.3	85				×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60				1	1		
	65,536色	46.9	75				×	×		
	1,677万色	53.7	85				×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60				1	1		
	65,536色	60.0	75				×	×		
	1,677万色	68.7	85				×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×			×	×		
	65,536色	80.0	75	×	×		×	×		
	1,677万色 2	91.1	85	×	×		×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×		×	×	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×		×	×	×	×
	1,677万色 3	106.3	85	×	×	×	×	×	×	×


- 1 デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。
- 2 MA70J/S、MA55J/Sの垂直走査周波数は60Hz、75Hzのみです。
- 3 MA70J/S、MA55J/Sの垂直走査周波数は60Hzのみです。MA86T/M、MA66T/Mは60Hz、75Hzで表示できます。

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Power Management System)に対応しています。

ディスプレイセットモデルをお使いの場合は、工場出荷時の状態ではマウスやキーボードからの入力がない状態が続いた場合、Windows 2000は20分、Windows NTは15分でディスプレイの電源を省電力モードにするように設定されています。19型CRTディスプレイ(FE90)の場合は、工場出荷時にオフに設定されています。

 参照 ディスプレイの省電力機能 Windows 2000のヘルプ

 **チェック!!** 省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

NT.....省電力機能の設定

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「画面」をダブルクリック
- 3 「スクリーンセーバー」タブをクリック
- 4 「スクリーンセーバー」の「省電力対応スクリーンセーバー」をクリック
- 5 「設定」ボタンをクリック
- 6 「ディスプレイの電力設定」で「サスペンド」または「オフ」を選択する
サスペンド ... 一定時間経過後ディスプレイを消費電力の少ないサスペンド状態にします。
オフ 一定時間経過後ディスプレイをより消費電力の少ない状態にします。

メモ

「ディスプレイの電力設定」で設定する「サスペンド」「オフ」とは、VESAで定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS)のことです。VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。

7 「OK」ボタンをクリック

8 「実行までの待ち時間」にシステムがアイドル状態になってから省電力状態に移行するまでの時間を設定する

9 「OK」ボタンをクリック

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、以下のことに注意してください。

本機に接続するディスプレイは「表示できる解像度と表示色」(P.67)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

別売のデジタル液晶ディスプレイを使用する場合は、本機に対応したVESAのDFP(Digital Flat Panel)準拠のデジタルインタフェースを持つデジタル液晶ディスプレイをご利用ください。

メモ

本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればエラーチェックプログラムを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

⚠ 注意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

温度、湿度条件を守ってください。

温度10 ~ 35、湿度20% ~ 80%(ただし結露しないこと)

ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。

電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。

電源を切るときは、「スタート」ボタン「シャットダウン」をクリックして電源を切ってください。正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。

電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしが空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。なお、MA56H/Lには添付していません。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加の「Masty Data Backup」Windowsのヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windowsの「チェックディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
10Gバイト	10,000,000,000バイト以上
20Gバイト	20,000,000,000バイト以上
30Gバイト	30,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

参照 ディスクの管理 Windowsのヘルプ、ディスクアドミニストレータのヘルプ

2000... ドライブ番号

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ 1		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ 1	Dドライブ 2	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Fドライブ 1	Eドライブ 2	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

- 追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。
- スーパーディスクドライブを搭載した省スペースモデルは、Eドライブ(ハードディスクドライブ)、Fドライブ(CD-ROMドライブ)となります。

5インチベイにスーパーディスクドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		スーパーディスクドライブ(5インチベイ用)
Bドライブ		フロッピーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Fドライブ	Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Gドライブ	Fドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

Zipドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ	Dドライブ	Zipドライブ
Fドライブ	Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Gドライブ	Fドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

NetPCモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)

NT..... ドライブ番号

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT16)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ	Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Fドライブ	Eドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

5インチベイにスーパーディスクドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブ
Bドライブ		スーパーディスクドライブ(5インチベイ用)
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT16)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ	Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Fドライブ	Eドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

Zipドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT16)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ	Dドライブ	Zipドライブ
Fドライブ	Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Gドライブ	Fドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

NetPCモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT16)
Dドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)

メモ

領域を確保を確保する場合は、できるだけシステム管理者など、ディスク管理に詳しいユーザの元で行ってください。

エラーチェックの操作手順

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック
- 2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック
- 3 「ファイル」「プロパティ」をクリック
- 4 「ツール」タブをクリック
- 5 「チェックする」ボタンをクリック
- 6 「チェックディスクオプション」を選択する



「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。「不良なセクタをスキャン(走査)し、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

- 7 「開始」ボタンをクリック



チェック!!

定期的エラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。なお、フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類の媒体があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB		
2HD	1.2MB		
	1.44MB		

参照 ▶ フロッピーディスクのフォーマット Windowsのヘルプ

Windows 2000をご利用の場合、3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。

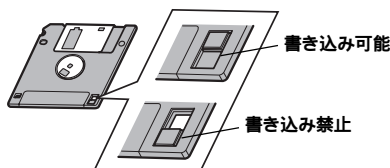
参照 ▶ 3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップ 『活用ガイド ソフトウェア編』他のOSを利用する『Windows 2000を利用する』3モードFDドライブのセットアップ

メモ

- ・ 1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。
- ・ 未使用のフロッピーディスクをフォーマットするには多少時間がかかります。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



スーパーディスクドライブ

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、従来のフロッピーディスクに加えて、120MBの記憶容量を持つスーパーディスクが使用できます。なお、フロッピーディスクまたはスーパーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。

使用できるディスク

本機では、2DD、2HDの2種類のフロッピーディスクと、スーパーディスクが使用できます。本機で読み書きおよびフォーマットできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	
			Windows 2000	Windows NT
フロッピーディスク 2DD	640KB	×	×	
	720KB			
フロッピーディスク 2HD	1.2MB		×	
	1.44MB			
スーパーディスク	120MB			

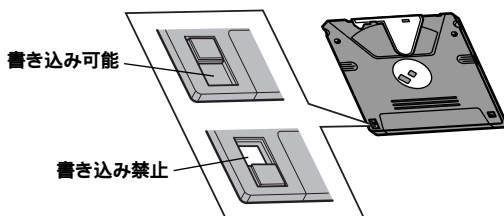
メモ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.2MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.2MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズの1.25MB(1024バイト/セクタ)のことです。専用フォーマットユーティリティでは、3.5インチ、1.2MB、1024バイト/セクタ(NEC)と表示されます。

チェック! Windows 2000では、スーパーディスクのディスクコピーはできません。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



ディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスク、スーパーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

- ✔ **チェック!!** Windows NTでスーパーディスク3モード対応ドライバおよび専用フォーマットユーティリティをセットアップした場合は、720KB/1.2MB/1.44MBのフロッピーディスクおよびスーパーディスク(120MB)のフォーマットはすべて専用フォーマットユーティリティで行ってください。Windowsのエクスプローラやコマンドプロンプトからのformatコマンドでのフォーマットはできません。スーパーディスク3モード対応ドライバをセットアップしていない場合には、720KB/1.44MBのフロッピーディスクおよびスーパーディスク(120MB)のフォーマットは、Windowsのエクスプローラやコマンドプロンプトからのformatコマンドで行うことができます。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✔ **チェック!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

- 1 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



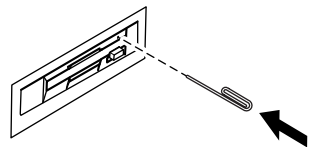
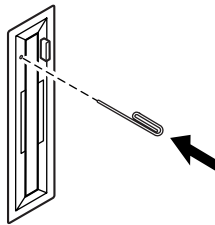
- 2 スーパーディスクドライブの非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクが少し飛び出します。



省スペース型の場合



デスクトップ型またはミニタワー型の場合




- 3 ディスクを取り出す



Zip ドライブ

5インチベイにZipドライブが標準で搭載されているモデルでは、大量のデータを扱うことができます。Zipディスクは1枚で100MBの記憶容量を持っているので、ハードディスクのデータのバックアップをとるのに便利です。


-  **チェック!!** Zipディスクの挿入は、本機に電源が入っている状態で行ってください。電源が入っていない状態でZipディスクを挿入するとZipドライブがこわれるおそれがあります。

使用できるディスク

本機では、100MBのZipディスクのみが使用できます。本機で読み書きできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
Zipディスク(100MB)	100MB		
Zipディスク(250MB)	250MB	×	×

Zipディスクをフォーマットするには、専用のフォーマット可能なユーティリティソフトウェアが必要です。

-  **チェック!!**
- ・ 本機では、FAT16フォーマットのZipディスクを利用できます。FAT32やNTFSには対応していません。
 - ・ Zipドライブには、他の種類のディスクを絶対に挿入しないでください。Zipドライブがこわれるおそれがあります。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするため、また重要なデータを保護するために、専用のユーティリティソフトウェアによってリード/ライトプロテクト(読み込み/書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトのみされているディスクは、データの読み出しはできますが、データの書き込みにはパスワードを入力する必要があります。リード/ライトプロテクトされているディスクは読み出し/書き込みのどちらにもパスワードが必要になります。

- ✔ **チェック!!** リード/ライトプロテクトされたZipディスクを利用するには、専用のリード/ライトプロテクト可能なユーティリティソフトウェアが必要になります。本機では、Zipディスクのリード/ライトプロテクト可能なユーティリティソフトウェアは添付されていないので、リード/ライトプロテクトされたZipディスクはご利用になれません。

ディスクのフォーマット

市販のZipディスクは、フォーマット済みになっています。不要なデータをすべて消去するために、フォーマット処理(初期化)を行うことができます。なお、フォーマットを行うと、書き込まれたデータはすべて消えてしまい、復元できませんのでご注意ください。

- ✔ **チェック!!** Zipディスクをフォーマットするには、専用のフォーマット可能なユーティリティソフトウェアが必要です。本機では、Zipディスクのフォーマット可能なユーティリティソフトウェアは添付されていないので、Zipディスクはフォーマットできません。FAT16でフォーマットされたZipディスクをご利用ください。

非常時のディスクの取り出し

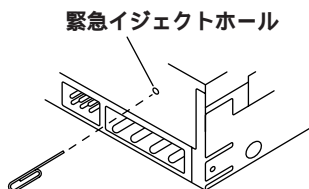
停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもZipディスクが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

- ✔ **チェック!**
- ・ 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
 - ・ Zipドライブを取り外した後で作業を行ってください。Zipドライブの取り外しについては『ハードウェア拡張ガイド』のPART3またはPART4の「ファイルベイ用内蔵機器の取り外し/取り付け」をご覧ください。

- 1** 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2** 緊急イジェクトホール(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
Zipディスクが少し飛び出します。



- 3** Zipディスクを取り出す

CD-ROMドライブ

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音楽用のCDを再生することもできます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量により耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠したCD、または下記の表中のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。



省スペース型の場合、8センチCDはご利用になれません。



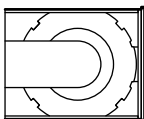
モニター型を横置きにして8センチCDを利用する場合は、5インチベイ用内蔵機器を縦に入れ直してください。詳しくは『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

規格	概要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-DA(CD-Digital Audio)	一般の音楽CD プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-Rewritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM

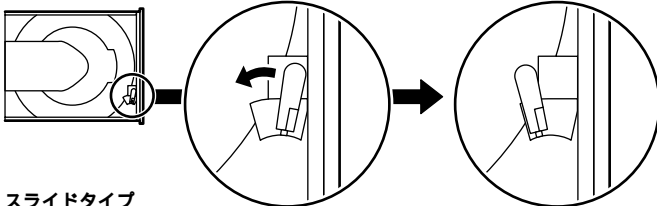
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)

- 1 ディスクトレイジェクトボタンを押す
トレイが出てきます。
- 2 CD-ROMをトレイに置く
文字が書かれている面が見えるように置いてください。
- 3 ディスクトレイのツメを出す
ツメには代表的なものとして、下記のようなタイプなどがあります。

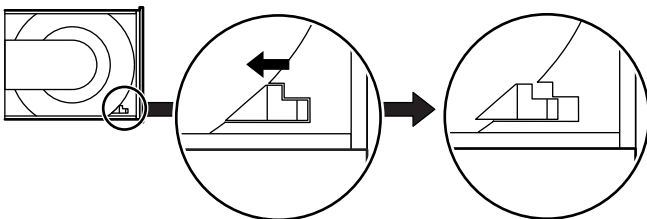
固定タイプ



レバータイプ



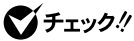
スライドタイプ



- 4 ディスクトレイジェクトボタンを押す
ディスクトレイジェクトボタンは、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。



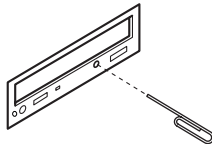
チェック!

- ・ 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- ・ 省スペース型をご利用の場合、筐体カバーを取り外した後で作業を行ってください。筐体カバーの取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

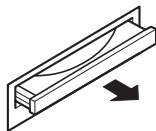
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



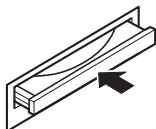
- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む





CD-R/RWドライブ

CD-R/RW(Compact Disc Recordable/Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-RW対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-R/RWドライブでは、ISO9660に準拠したCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。再生できるCDについては、「CD-ROMドライブ」再生できるCDの種類(P.85)の表をご覧ください。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、使用するソフトウェアのヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-R/RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、Easy CD CreatorまたはDirectCDが必要です。使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加の「Easy CD Creator」または「DirectCD」をご覧ください。

**チェック!!**

- ・ 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- ・ 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピーの作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からのコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。

非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」**非常時のディスクの取り出し** (P.87)をご覧ください。



サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器などから再生することができます。音量の設定については、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」または「マルチメディア」「ボリュームコントロール」で行ってください。

参照

ボリュームコントロールのヘルプ



チェック!!

MA53H/S、MA86T/M、MA66T/Mをご利用の場合、再生には外付けスピーカが必要です。

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリューム(省スペース型の場合)または「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。



MA70J/S、MA55J/S

本体に内蔵している100BASE-TX/10BASE-Tコネクタを使用しない場合は、BIOSセットアップメニューの「Advanced」の「On board LAN」を「Disabled」にしてください。また、「Disabled」に設定した場合はリンクケーブルを接続しないでください。



「PART2 システム設定」Advancedの設定 (P.115)

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。



「PART5 付録」機能一覧 (P.188)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。




チェック!

本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

LANの設定

2000...ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows 2000のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 2000 Professionalファーストステップガイド』のネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする

 **チェック!!** 工場出荷時は、ネットワークプロトコル(NetBEUI)が設定されています。

- 1 「スタート ボタン」「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリック
ここで「サービス」、「プロトコル」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。

メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システムの管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 3 「スタート ボタン」「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 4 「システム」をダブルクリック
- 5 「ネットワークID」タブをクリック
- 6 「プロパティ」ボタンをクリック
- 7 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に、必要な情報を入力する


メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 8 入力を終わったら「OK」ボタンをクリック

NT.....ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については『Microsoft® Windows NT® Workstationファーストステップガイド』の第4章 ネットワークの基礎』のネットワークを使うようにコンピュータをセットアップする』以降をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする

 **チェック!** 工場出荷時は、ネットワークプロトコル(NetBEUI)が設定されています。

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
ここで「識別」、「サービス」、「プロトコル」、「アダプタ」および「バインド」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。

メモ


必要な構成要素がわからない場合は、システムの管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 3 「識別」タブをクリック
- 4 「変更」ボタンをクリック
- 5 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に、必要な情報を入力する

メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 6 入力を終わったら「OK」ボタンをクリック


 **チェック!** ネットワークをインストールしたり、新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度サービスパックをインストールする必要があります。インストール方法については『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加』の「サービスパック」について(NTの場合)をご覧ください。

NT..... ネットワークプロトコルを追加する

Windows NTをセットアップした後にネットワークプロトコルを追加する場合は、次の手順で追加を行います。

工場出荷時にはTCP/IPプロトコルは組み込まれていませんので、インターネットなどに接続する場合は、TCP/IPプロトコルを組み込んでください。

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「プロトコル」タブをクリック
- 4 「追加」ボタンをクリック
- 5 インストールしたいプロトコルをクリックして、「OK」ボタンをクリック
- 6 選択したプロトコルによっては、ここで設定画面が表示されるので、適切な設定を行う
- 7 Windows NTのファイルが要求されたら、次のように入力して「続行」ボタンをクリック
C:\¥i386
- 8 さらにプロトコルを組み込む場合は手順4~7を繰り返す
- 9 必要なすべてのプロトコルを組み込んだら「閉じる」ボタンをクリック

 **チェック!!** ここでは、「閉じる」ボタン以外はクリックしないでください。

- 10 インストールしたプロトコルによってはここでプロトコルの設定画面が表示されるので、適切な設定を行う
- 11 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

12 サービスパックをインストールしてから本機を再起動する

- ✔ **チェック!** 「ネットワーク」の画面で、プロトコルの設定後に「バインド」タブを選択した場合は、再度プロトコルの設定は行わないでください。設定が必要な場合は再起動後に行ってください。

2000... リモートパワーオン機能を利用する

Windows 2000でリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定をしてください。なお、設定はAdministrator権限を持ったユーザでログオンしてから行ってください。

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「ハードウェア」タブをクリック
- 4 「デバイスマネージャ」ボタンをクリック
- 5 「ネットワークアダプタ」の以下のアダプタ名をダブルクリック
< MA86T/M、MA66T/M、MA70J/S、MA55J/S、MA86T/C、MA73T/C、MA66T/Cの場合 >
Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)
< MA56H/C、MA56H/L、MA53H/Sの場合 >
Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter
- 6 「電源の管理」タブをクリック
- 7 以下の2つのチェックボックスにチェックを入れる
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
 - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 8 「閉じる」ボタンをクリック
- 9 「デバイスマネージャ」を閉じる

- 10 「システムのプロパティ」の「OK」ボタンをクリック
- 11 MA86T/M、MA66T/M、MA70J/S、MA55J/S、MA86T/C、MA73T/C、MA66T/Cの場合は以下の設定を行う
 - 「コントロールパネル」の「Intel(R) PROSet」をダブルクリック
 - 「Advanced」タブをクリック
 - 「Settings」から「Enable PME」を選択
 - 「Value」から「No Action」を選択
 - 「OK」ボタンをクリック
- 12 「コントロールパネル」を閉じる
- 13 本機を再起動する



FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。ATコマンドについては、『ATコマンド(ここをクリック)』をご覧ください。

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ハイパーターミナル

その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しないことがあります。

FAX通信機能

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56,000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。

K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます)、総合デジタル通信網(ISDN)、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

「技術基準等適合認定について」(P.7)

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。

FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客さまへ～』『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- ・ 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話機などは2線式のみです。電話機などの種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、接続する電話機などによっては、FAXモデムボードが正常に通信できない場合があります。正常に通信できない場合は、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。
 - ・ 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ。
 - ・ 電話機などに別の電話を接続するためのコネクタがある場合は、接続の順番を変える(加入電話回線 = 電話機 = 本機のようにする)。接続については、電話機などのマニュアルをご確認ください。
 - ・ モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。
- ・ FAXモデムボードの電話機用モジュラーコネクタに電話機などを接続している場合、または市販の分岐コネクタを使用して電話機などと本機とを加入電話回線に接続している場合は、モデムによる通信の際に電話機などを使用していないことを確認してください。また、モデムで通信中は電話機などを操作しないようにしてください。電話機などを操作すると、通信が妨害され、切断されることがあります。また、受話器が外れると、通信が中断されることがあります。

- ・ 電話機用モジュラーコネクタには、他のモデムを接続しないでください。他の外付けモデムなどが、電話機用モジュラーコネクタに接続されている場合は取り外してください。
- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者(NTTなど)に確認してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)〔工場出荷時の設定〕に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・ 通信中は、電話機用モジュラーコネクタに接続した電話機の手話器を外さないようにしてください。手話器が外れると通信が中断されることがあります。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9600bps以下にしてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できないことがあります。
- ・ 回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。

COMポートの設定について

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのポート番号は、工場出荷時の状態ではWindows 2000の場合はCOM3が、Windows NT 4.0の場合はCOM5が割り当てられています。通常はこのままご使用ください。



Mateセキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、障害管理、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブを使用できないようにする(ロックする)(I/Oロック)
- ・ メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させないようにする。(筐体ロック)
- ・ システム管理者向けと一般ユーザ向けの利用環境を設定し、使用できる機能を制限する。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)
- ・ ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions))
- ・ ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions))

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

BIOS LOCK

BIOSレベルで本機の利用者を限定し、本機の起動を制限します。これにより、コンピュータウイルスやデータ改ざんなどからパソコンを守ります。

参照 「PART2 システム設定」の「Securityの設定」(P.120)、MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定(MA53H/Sの場合)」の「Security Setupの設定」(P.160)

BIOS LOCKには、次の方法があります。

指紋認証を利用する

本体の起動時やパスワードの入力を要求される場合、別売の指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002〕を利用して指紋を照合することで、ユーザーの不正使用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。MA56H/L、MA53H/Sではご利用になれません。

参照 指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002〕に添付のマニュアル

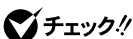
スマートカードを利用する

別売のスマートカードリーダー/ライター(PK-SM001)とスマートカード発行ツール(PK-SM002V2)、スマートカード(PK-SM003)を利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけで個人認証をすることができます。MA56H/L、MA53H/Sではご利用になれません。

参照 スマートカード発行ツール(PK-SM002V2)に添付のマニュアル

パスワードの設定

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の利用者を制限するとともに、本機の利用者を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。



チェック!

下記の状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」にしなければなりません。

- ・ スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Password On Boot」が「Enabled」に設定されている場合

- ・ 本機に指紋認証ユニットが接続され、指紋認証ユニットのBIOS LOCKが設定されている場合
- ・ 本機にスマートカードリーダーが接続され、スマートカードのBIOS LOCKが設定されている場合

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O（フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、シリアルポート、パラレルポートなど）を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションをインストールすることを防止することができます。



「PART2 システム設定」I/Oロック（P.123）MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定（MA53H/Sの場合）」の「Peripheral Setupの設定」（P.156）



ハードディスクパスワード

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することにより、本機以外のパーソナルコンピュータでハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあつて、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。省スペース型およびミニタワー型の場合に利用できます。



ハードディスクパスワードの設定 「PART2 システム設定」Securityの設定（P.120）

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「VirusScan」

筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体のハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止に役立てることができます。また、市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することで、本体の開閉や盗難防止にも役立てることができます。



MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C、MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/L、
MA86T/M、MA66T/M

省スペース型およびミニタワー型をご利用の場合、筐体ロックはKensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しており、別途購入していただく必要があります。入手方法については、次の国内総販売代理店にお問い合わせください。

日本ボラデジタル株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番地2号はごろもビル

TEL：03-3537-1070 FAX：03-3537-1071(2000年5月現在)



MA70J/S、MA55J/S、MA53H/S

デスクトップ型をご利用の場合、セキュリティプレートを取り付けることで本体カバーをロックすることができます。セキュリティプレートの取り付けについては『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

ルーフカバーオープン検知

カバーセンサにより、ルーフカバーの開閉を検知します。開閉が検知された場合は、Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)により通知されます。メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査してください。MA56H/Lではご利用になれません。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「Inte(R)LANDesk(R)Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」



ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。



『ハードウェア拡張ガイド』

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売のCyberAccess Ver2.0により、管理者PCから一括して設定、変更することができます。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「CyberAccess」

プリブートマネジメント(Preboot Management)

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上および別売のESMPRO/PrebootManager Ver1.0により、電源を入れてからWindowsが起動するまでの間の障害を監視します。また、管理者PCからリモートでクライアントPCのBIOS設定値を変更できるので、Windows起動前のクライアントPCに対するリモートメンテナンスが可能です。

MA56H/L、MA53H/Sではご利用になれません。

OFF state Alert II機能

本機の電源が切れている状態での筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜け等の異常を検出し、LANで接続された管理者側パソコンに通知します。また、オペレーティングシステムがハングアップした場合、LANで接続された管理者側パソコンに通知し、管理者側パソコンからリモートで電源を切ったり、再起動させることができます。なお、この機能を使用する場合、管理者側パソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上(Windows 98/Windows NT版)またはDMITool Ver8.1(PCAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)をインストールする必要があります。

MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/L、MA53H/Sではご利用になれません。なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/> (2000年4月現在)

SMART機能

ハードディスクドライブの異常を監視します。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T.(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup」との連携によってバックアップをとることができます。

MA56H/Lではご利用になれません。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

クライアントモニタリング

Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGER Ver2.0を利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

MA56H/Lではご利用になれません。

参照▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加』の「Inte(R)LANDesk(R)Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」

資源管理

本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

状態監視

筐体内温度、電圧、CPUファン監視機能から障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

ECC(Error Correcting Code)機能

メモリエラーを自動的に検出/訂正しながら運用できます。

MA70J/S、MA55J/S、MA86T/M、MA66T/Mの場合に利用できます。

ソフトウェアパワーオフ機能

Windows動作中に誤って電源ボタンに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

ネットワークブート

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上により、OSのセットアップ、BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)、BIOS設定変更の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。MA56H/Lではご利用になれません。また、MA53H/SではBIOSフラッシュはご利用になれません。

一括ファイル配信

管理者PCからリモート操作で、複数のクライアントPCに対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。別売のESMPRO/DeliveryManagerが必要です。

リモートコントロール



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「pcAnywhere 9.0 EX」

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作()を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)またはpcAnywhere(Symantec社製)が必要です。MA56H/Lではご利用になれません。

なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/> (2000年4月現在)

アプリケーションによっては、できないものがあります。

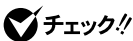
リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはIntel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)からのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信するパソコンには別売のDMITOOl Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)が、パワーオンメッセージを受信するパソコンにはBIOSの設定が必要です。

参照 BIOSの設定 「PART2 システム設定」Bootの設定 (P.132)および「Securityの設定 (P.120) MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定 (MA53H/Sの場合)」Power Management Setupの設定 (P.148) LANの設定 「PART1 本体の構成各部」LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」



チェック!

- ・ 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。
- ・ Windows NT 4.0では、本機がサスペンド状態のとき、リモートパワーオン機能によるレジュームはできません。
- ・ Windows NT 4.0では、リモートパワーオンで起動したときに自動的にWindows NTにログオンするには、Timer-NXのオートログオンの設定が必要です。
- ・ Windows 2000では、電源が切れている状態からリモートパワーオン機能で電源を入れることはできません。

サーバ管理機能

LAN上のサーバーを一括管理するための機能を提供する、「ESMPRO/ServerAgent Ver3.1」があります。本機にて「ESMPRO/ServerAgent Ver3.1」をお使いいただくには本機に対応するためのモジュールが必要になります。本機に対応するモジュールは次のインターネット情報サービスからダウンロードしてください。

- PICROBO <http://www.nec.co.jp/picrobo/>（2000年4月現在）

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

MA53H/Sをご利用の場合は、「PART3 システム設定 (MA53H/Sの場合) (P.135) をご覧ください。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	110
Mainの設定	112
Advancedの設定	115
Securityの設定	120
Powerの設定	126
Bootの設定	132

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。工場出荷時は、BIOSセットアップメニューは英語で表示されます。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot. ()」と表示されたら、【F2】を押す
以下の画面が表示されます。

メニューを日本語に設定した場合は、「F2 : BIOSセットアップメニューを起動します、F12 : ネットワークブートします。」と表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility			
Main	Advanced	Security	Power Boot Exit
System Time :	[hh:mm:ss]		Item Specific Help
System Date :	[yyyy/mm/dd]		<Tab>, <Shift-Tab>, or
			<Enter> selects field
Language :	[English(US)]		
Legacy DisketteA :	[1.44 / 1.25 Mb 3.5"]		
Legacy DisketteB :	[Disabled]		
▶ Primary Master :	[x x x MB]		
▶ Primary Slave :	[None]		
▶ Secondary Master :	[CD-ROM]		
▶ Secondary Slave :	[None]		
▶ Keyboard Features			
Boot-time Diagnostic Screen	[Disabled]		
System Memory	640KB		
Extended Memory	x x KB		
BIOS Revision	x x x x x x		
F1 Help	Select Item	- / + Change Values	F9 Step Defaults
Esc Exit	Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
デフォルト値(工場出荷時の設定値)を読み込みます。
- 5 【F10】を押す
- 6 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

System Time()

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

System Date()

日付を「年/月/日」で入力します。

Language()


BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」に設定されています。

Legacy Diskette A

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。

省スペース型でスーパーディスクドライブが搭載されているモデルは「Disabled」に設定されています。フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルおよびNetPCモデルは「1.44/1.25MB 3 1/2"」に設定されています。「Disabled」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容
Legacy Diskette A	Disabled
	360 Kb 5 1/4"
	1.2 MB 5 1/4"
	720 Kb 3 1/2"
	1.44/1.25 MB 3 1/2"
	2.88 MB 3 1/2"


網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Legacy Diskette B

「Legacy Diskette A」の設定と同じです。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。本項目が表示されない機種もあります。

Primary Master()

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面となります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。




Primary Slave()

プライマリマスタの設定と同様です。

3.5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。


追加ハードディスクドライブが搭載されたモデルでは、追加ハードディスクドライブの設定画面になります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

Secondary Master()

プライマリマスタの設定と同様です。

工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの設定画面となります。


 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。



Secondary Slave()

プライマリマスタの設定と同様です。

5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。スーパーディスクドライブが搭載されたモデルでは、スーパーディスクドライブの設定画面となります。Zipドライブが搭載されたモデルでは、Zipドライブの設定画面になります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

Keyboard Features

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
NumLock	Auto / On / Off	起動時にNum lockを有効にするかを設定します。

設定項目	設定内容	説明
Key Click	Disabled / Enabled	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
Keyboard auto-repeat rate	30/sec、26.7/sec、21.8/sec、18.5/sec、13.3/sec、10/sec、6/sec、2/sec	キーリピート間隔を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4sec、1/2sec、3/4sec、1sec	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
Legacy USB Support	Enabled / Disabled	USBレガシー機能を設定します。工場出荷時は、「Enabled」です。Windows NTでPS/2接続のキーボードの場合は「Disabled」に、USB接続のキーボードの場合は「Enabled」に設定してください。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Boot-time Diagnostic Screen

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Enabled」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。

System Memory

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

Extended Memory

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

BIOS Revision

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

Processor Serial Number

Pentium®IIIプロセッサの「Processor Serial Number」機能を設定します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Advancedの設定

Advancedの設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

Plug & Play O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は、Windows 2000の場合は「Yes」に、Windows NT 4.0の場合は「No」に設定されています。Windows 2000またはWindows NT 4.0に他のOSを追加してセットアップ(デュアルブート)した場合は、起動するOSによって設定内容を変更してください。


Reset Configuration Data

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

PCI Configuration

各PCIデバイスの割り込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 1で使用する IRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 2で使用する IRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 3で使用する IRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 4	Disabled/ Auto Select /3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 4で使用する IRQ番号を設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

PCI Configurationの設定項目とPCIスロットは、次のように対応しています。

設定項目	省スペース型	デスクトップ型
PCI IRQ line 1	LANボードまたはFAXモデムボード専用スロット	PCIスロット#1
PCI IRQ line 2	PCIスロット#1	PCIスロット#2
PCI IRQ line 3	PCIスロット#2	PCIスロット#3
PCI IRQ line 4	-	-

NetPCの場合は、LANボードのみ

Cache Memory

本項目の設定は変更しないでください。

I/O Device Configuration

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Serial Port A (シリアルコネクタ またはシリアルコ ネクタ1)	Disabled	シリアルポートAが使用でき なく(I/Oロック)、割り込 みが開放されます。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込 みが設定できます。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込 みを自動的に設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイ対応OSが I/Oベースアドレスと割り込 みを自動的に設定します。
Base I/O Address	3F8 / 2F8 / 3E8 / 2E8	I/Oベースアドレスを設定し ます。
Interrupt	IRQ3 / IRQ4	割り込み番号を設定します。
Serial Port B (シリアルコネクタ2)	Serial Port Aと同様です。	工場出荷時は、Windows 2000の場合は「Disabled」 に、Windows NTの場合は 「Enabled」に設定されて います。省スペース型の場 合は表示されません。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Parallel Port (パラレルコネクタ)	Disabled	パラレルポートが使用できなくな(I/Oロック)、割り込みが開放されます。
	Enabled	パラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割り込み番号を設定できます。
	Auto	自動的にパラレルポートを設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイ対応OSが自動的に設定します。省スペース型の場合は表示されません。
Mode	Output only / Bi-directional /ECP	モードを設定します。
Base I/O Address	378 /278/3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ5/ IRQ7	パラレルポートに割り込み番号を設定します。
Floppy Disk Controller	Disabled / Enabled /Auto	フロッピーディスクドライブの使用を設定します。工場出荷時は、フロッピーディスクドライブおよびNetPCモデルの場合は「Enabled」、省スペース型のスーパーディスクドライブのモデルの場合は「Disabled」です。
Base I/O Address	Primary /Secondary	オプションのフロッピーディスクドライブのI/Oベースアドレスを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Large Disk Access Mode
本項目の設定は変更しないでください。


Local Bus IDE adapter

内蔵用のIDEアダプタを使用するかを設定します。工場出荷時は「Both」に設定されています。「Primary」ではセカンダリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Secondary」ではプライマリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Disabled」ではすべてのIDEデバイスが使用できなくなります。(I/Oロック)

Advanced Video Control

使用するビデオの設定を行います。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

設定項目	設定内容	説明
Graphics Aperture	4Mb/8Mb/16Mb/ 32Mb/ 64Mb /128Mb/ 256Mb	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックアパーチャサイズを設定します。
Default Primary Video Adapter	AGP/ PCI	使用するビデオデバイスを選択します。PCIスロットにビデオカードが増設されていない場合は「PCI」に設定してもAGPが有効になります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。


QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

Sound

サウンドのリソースを設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Sound	Disabled	サウンドを切り離します。
	Enabled	サウンドが使用できます。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



On board LAN

「Disabled」を設定すると内蔵LANを切り離します。「Disabled」に設定した場合は、リンクケーブルを接続しないでください。本項目は、MA70J/S、MA55J/Sの場合に表示されます。

DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
View DMI Event Log	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No / Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Enabled / Disabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。


網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。


LANDesk(R)Service()


本体BIOSに標準搭載しているLANDeskService機能の設定を行います。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

-  **チェック!** LANDesk(R)Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0が必要です。

Preboot Management()

Preboot Management機能の設定を行います。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

-  **チェック!** Preboot Management機能を使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上およびESMPRO/PrebootManager Ver1.0が必要です。

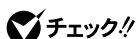
 **参照** 「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.100)

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。




チェック!!

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード、BIOS LOCK、ハードディスクパスワードを設定する場合は、事前にこの「Securityの設定」または『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておいてください。

Set Supervisor Password

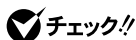
スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
Set Supervisor Password	Set	スーパーバイザパスワードが設定されています。
	Clear	スーパーバイザパスワードが設定されていません。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Set User Password()

ユーザパスワードの設定状態を表示します。スーパーバイザパスワードの設定と同様です。



チェック!!

ご購入元、Bit-INN、NECフィールドینگ支店・営業所に本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。



スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。「Password On Boot」を「Enabled」にすることで本機の使用者を制限することができます。

ハードディスクドライブにパスワードを設定した場合は、スーパーバイザパスワードも設定してください。

Security Mode

セキュリティモードを選択します。「Password」と「SmartCard」と「FingerPrint」が選択できます。工場出荷時は「Password」です。

Password On Boot

起動時にパスワード入力を行うかの設定をします。「Security Mode」が「Password」の場合に表示されます。リモートパワーオン機能を利用するときは、「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」に設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

Fixed disk boot sector

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。


Diskette Access

「Supervisor」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。ただし、スーパーディスクドライブへのアクセスは制限できません。工場出荷時は「Supervisor」です。


Network Boot Setting()

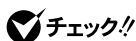
この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Keyboard/ Mouse Lock	Enabled / Disabled	「Enabled」を選択すると、リモート(PME)起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Password On Boot」で「SmartCard」または「FingerPrint」が設定されていてもリモート(PME)起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合、スマートカードリーダまたは指紋認証ユニットを接続した場合に表示されます。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



チェック!

ここでのリモート(PME:Power Management Event)起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指します。



参照

リモートパワーオン機能 「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.100)

Virus check reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

System backup reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

Cover Open Check

「Enabled」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

メモ

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューのI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブA、フロッピーディスクドライブB、シリアルポートA、シリアルポートB、パラレルポートです。

**Assign HDD Password**

ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)にパスワードを設定します。ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)とハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)の2つがあります。【Enter】を押すとハードディスクマスタパスワードの設定画面が表示され、ハードディスクマスタパスワードを設定すると、ハードディスクユーザパスワードの設定画面が表示されます。次にプライマリマスタの設定を行います。なお、プライマリマスタの設定を変更されないよう、スーパーバイザパスワードを設定してください。本項目は、省スペース型の場合に表示されません。

**チェック!**

ご購入元、Bit-INN、NECフィールドینگ支店・営業所に本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

- ・ **ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)**
ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「ハードディスクパスワードをすべて解除する」をご覧ください。
- ・ **ハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)**
ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することにより、本機以外でハードディスクドライブの不正使用を防止できます。


**チェック!**

ハードディスクマスタパスワードを設定していないとハードディスクユーザパスワードを設定することはできません。

△注意

設定したパスワードを忘れないように控えておくことをお勧めします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意してください。

設定項目	設定内容	説明
Primary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)へ、ハードディスクパスワードを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

本機(プライマリマスタ)にインストールされたWindows)を起動する場合、「Primary Master HDD Password」を「Enabled」にしても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを入力する必要はありません。

ハードディスクパスワードをすべて解除する
次の手順でハードディスクドライブのパスワードをすべて解除してください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する

参照 ▶ 「PART2 システム設定」の「BIOSセットアップメニューについて」(P.110)

2 「Security」を選ぶ

3 「Assign HDD Password」を選んで、【Enter】を押す ハードディスクパスワードの入力画面が表示されます。

4 ハードディスクマスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

6 【Enter】を押す

セットアップ通知画面が表示されますので、BIOSセットアップメニューの変更を保存して終了してください。

以上でハードディスクドライブのパスワードがすべて解除されます。

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定により制限することができます。もし、これらのパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

- ✔ **チェック!!** 無断でパスワードが解除されることを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.102)

Powerの設定

Powerの設定

本機の省電力管理設定を行います。項目の右側に () マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

2000... Windows 2000の場合、「Power Savings」、「Auto Suspend Timeout」、「Hard Disk Timeout」、「System Switch」の設定は、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」「電源オプション」で行ってください。また、項目の右側に () マークが付いている設定項目は、Windows 2000の使用時は設定が無効になります。

参照▶ 「電源オプション」の設定 Windows 2000のヘルプ

Power Savings ()

NT..... パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
Power Savings	Disabled	パワーマネジメント機能を停止します。
	Customized <small>注</small>	自動サスペンドおよびハードディスクのタイムアウト時間をユーザが選択できます。
	Maximum Power Savings <small>注</small>	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 5 Minutes Hard Disk Timeout: 1 Minute
	Maximum Performance	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 60 Minutes Hard Disk Timeout: 15 Minutes

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。


注 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れな
いこともありますのでご注意ください。

Auto Suspend Timeout()

NT.....本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は「Off」に設定されています。「System Switch」が「Power Button」に設定されている場合もサスペンド/レジュームします。

Hard Disk Timeout()

NT.....ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

 **チェック!** 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

System Switch()

システムスイッチは、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は、「Power Button」に設定されています。

- ・「Power Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「Sleep Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってサスペンド/レジュームすることができます。

2000... Windows 2000を選択した場合

「System Switch」の設定は無効になり、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「電源オプション」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になり、次のようになります。

- ・「電源オフ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スタンバイ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。
- ・「休止状態」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって休止状態/休止状態から復帰することができます。

「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「電源オフ（工場出荷時）から「スタンバイ」または「休止状態」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「次の中から選んでください」で「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で、強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 2000を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。


方法1

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色に点灯し、一瞬だけ緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

NT..... Windows NT 4.0を選択した場合
システムスイッチの設定を「Power Button (工場出荷時)から「Sleep Button」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

 **チェック!!** 電源スイッチでサスペンド/レジュームするには、「System Switch」を「Sleep Button」に変更後、「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ソフトウェア電源断」の「ドライバ」タブの「サスペンド/レジューム機能を使用する」にチェックが付いている必要があります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「シャットダウンする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows NTを起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。



Resume On Input()

「On」に設定すると入力デバイスによるレジュームを有効にします。工場出荷時は、Windows 2000の場合は「On」に、Windows NTの場合は「Off」に設定されています。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

2000... Windows 2000使用時の各入力デバイスのレジュームの設定については、次の方法で行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の「デバイススマネージャ」をクリック

2 各デバイスの「プロパティ」の「電源の管理」タブの「このデバイスで、コンピュータスタンバイ状態を元に戻すことが出来るようにする」をクリックしてオンにする

Resume On Modem Ring()

「On」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は、「Off」に設定されています。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。

Windows 2000使用時のレジュームの設定方法については「Resume On Input」と同じです。

Resume On Time()

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間で本機をサスペンド状態またはスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

Resume Time()

レジュームする時刻を設定します。



IDE Drive 0 Monitoring()

「Enabled」に設定するとIDEデバイス0(プライマリマスタ、工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が動作中にスタンバイ(サスペンド)状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。



IDE Drive 1 Monitoring()

「Enabled」に設定するとIDEデバイス1(プライマリスレーブ、追加ハードディスクドライブが搭載されたモデルは追加ハードディスクドライブ)が動作中にスタンバイ(サスペンド)状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。



IDE Drive 2 Monitoring()

「Enabled」に設定するとIDEデバイス2(セカンダリマスタ、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ)が動作中にスタンバイ(サスペンド)状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

IDE Drive 3 Monitoring()

「Enabled」に設定するとIDEデバイス(セカンダリスレーブ、5インチベイにスーパーディスクドライブが搭載されているモデルはスーパーディスクドライブ、Zipドライブが搭載されたモデルはZipドライブ)が動作中にスタンバイ(サスペンド)状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

PCI Bus Monitoring()

「Enabled」に設定するとPCIバスが動作中にスタンバイ(サスペンド)状態へ遷移しないように監視します。工場出荷時は「Disabled」です。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

設定項目	設定内容	説明
Bus Utilization Threshold	0 ~ 255	256クロックサイクル期間に検出されるデータフェーズ数を設定します。0から255までの値が設定できます。
Bus Percentage Threshold	0 ~ 100	スタンバイタイマをリロードするためのバスの占有時間率を設定します。0から100までの値が設定できます。

Bootの設定


電源の設定

AC電源投入時の電源状態や、PCIデバイスにより電源を入れるための設定を行います。項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザーパスワードで起動した場合のみ変更可能、()マークが付いている設定項目は、Windows 2000の使用時は設定が無効になります。

Restore On AC/Power Loss()

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。工場出荷時のデスクトップ型は「Power Off」、省スペース型は「Last state」です。なお、省スペース型の場合はスーパーバイザパスワードで起動した場合のみ変更できます。Windows 2000の使用時は、MA70J/S、MA55J/Sの本項目の設定は無効になります。

設定項目	設定内容	説明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源がオン(電源は入らない)しない。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源がオン(電源が入る)する。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

On PME()

PCIデバイス(LANボード等)による電源オンを有効にします。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。

電源オンとは、電源を入れることです。電源オフとは、電源を切ることです。

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

設定項目	設定内容	説明
1	[Removable Devices]	本機を起動するデバイスの順番を決めます。1～5の数字に設定したデバイスの順番に起動されます。
2	[ATAPI CD-ROM Drive]	
3	[Hard Drive]	
4	[Network Boot]	
5	[LANDesk(R)Service]	

起動するデバイスを変更するには【 **X** 】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【 + 】を押すとリストの上側に移動し、【 - 】を押すとリストの下側に移動します。

複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。



チェック!!

使用環境に合わない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。

Hard Drive()

本機は、起動順位1のハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの順序(1,2...)に従い検索を続けます。

Removable Devices()

この項目は、取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブなどについて設定します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの順序(1,2...)に従い検索を続けます。

Removable Format(この項目はスーパーディスクドライブを搭載している装置のみ表示)()

取り外し可能なデバイスに挿入されているメディアのフォーマットが、ハードディスクか、取り外し可能デバイスかを設定します。

Summary Screen

「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。



システム設定(MA 5 3 H / S の場合)

この章では、MA53H/SのBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	136
Standard CMOS Setupの設定	139
Advanced CMOS Setupの設定	142
Advanced Chipset Setupの設定	147
Power Management Setupの設定	148
PCI / Plug and Play Setupの設定	155
Peripheral Setupの設定	156
Hardware Monitor Setupの設定	158
Auto-Detect Hard Disksの設定	159
Security Setupの設定	160

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

- 1 本体の電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴ画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら【F2】を押す
以下の画面が表示されます。

AMIBIOS HIFLEX SETUP UTILITY - VERSION X.XX (C) 1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision XXXXXXXX Standard CMOS Setup Advanced CMOS Setup Advanced Chipset Setup Power Management Setup PCI / Plug and Play Setup Peripheral Setup Auto-Detect Hard Disks Security Setup Auto Configuration with Optimal Settings Save Settings and Exit Exit Without Saving
Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc. ESC : Exit : Sel F3/F4 : Color F9 : Load Optimal Values F10 : Save & Exit

メモ

BIOSセットアップメニューの基本動作

- ・【 **X** **X** **X** 】で設定項目を選択します。
- ・設定項目内の選択は【Page Up】Page Down】で設定します。
- ・「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【Tab】で行います。
- ・【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

終了の選択項目

選択項目	説明
Save Settings and Exit	変更した設定を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Without Saving	変更した設定を保存せずに終了します。 (【Esc】を押す終了方法と同じ)
Auto Configuration with Optimal Settings	すべての選択項目をデフォルト値(初期値)に戻します。(【F9】を押す終了方法と同じ)

⚠ デフォルト値を読み込むときの注意

「デフォルト値」は、工場出荷時の設定値ではありません。工場出荷時の設定値に戻すには、デフォルト値を読み込んだ後、ご使用のモデルに合わせて設定を変更する必要があります。必ず、次の「工場出荷時の設定値に戻す」へ進み、手順に従ってください。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

2000... Windows 2000を選択した場合

- 1 本体の電源を入れ、「NEC」ロゴ画面が表示されたら【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 2 「Auto Configuration with Optimal Settings」を選択し、【Enter】
を押す
- 3 「Load high performance settings(Y/N)?」と表示されたら【Y】
を押す、【Enter】を押す
- 4 「Save Settings and Exit」を選択し、【Enter】を押す
- 5 「Save Current Settings and exit(Y/N)?」と表示されたら
【Enter】を押す
設定値が保存され、自動的に再起動します。

NT..... Windows NT 4.0を選択した場合

- 1** 本体の電源を入れ、「NEC」ロゴ画面が表示されたら【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 2** 「Auto Configuration with Optimal Settings」を選択し、【Enter】を押す
- 3** 「Load high performance settings(Y/N)?」と表示されたら【Y】
を押し、【Enter】を押す
- 4** 「PCI / Plug and Play Setup」を選択し、「Plug and Play Aware
O/S」の項目を「No」に設定する
USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボードの
場合は手順6へ進んでください。
PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボードの場合は
手順5へ進んでください。
- 5** 「Advanced Chipset Setup」を選択し、「USB Legacy Support」
の項目を「Disable」に設定する
- 6** 「Save Settings and Exit」を選択し、【Enter】を押す
- 7** 「Save Current Settings and exit(Y/N)?」と表示されたら
【Enter】を押す
設定値が保存され、自動的に再起動します。

Standard CMOS Setupの設定

Standard CMOS Setupの設定

Standard CMOS Setupでは、日付と時刻の設定や、本機の基本的なハードウェア(フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブなどのIDEデバイス)の設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

Date (mm/dd/yyyy) ()

現在の日付を「月/日/年」で入力して設定します。

Time (hh/mm/ss) ()

現在の時刻を24時形式の「時:分:秒」で入力して設定します。

Floppy Drive A ()

標準で搭載されているフロッピーディスクドライブのモードを設定します。本項目の設定は変更しないでください。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Drive A	Not Installed 1.2 MB 5 1/4 720 KB 3 1/2 1.44/1.25 MB 3 1/2	「Not Installed」の場合、フロッピーディスクドライブが接続されていても使用することができません。工場出荷時は「1.44/1.25 MB 3 1/2」です。

網かけの部分 1.44/1.25 MB 3 1/2 は、工場出荷時の設定値です。

Floppy Drive B ()

別売のフロッピーディスクドライブを接続したときのモードを設定します。設定項目はFloppy Drive Aと同じですが、工場出荷時には「Not Installed」に設定されています。

Pri Master ()

現在接続されているIDEデバイス(Primary Master:ハードディスクドライブ)が表示されます。本項目の設定は変更しないでください。

設定項目	設定内容	説明
Type	User Auto CDROM FLOPTICAL Not Installed 1~46	「Auto」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「User」に設定すると以下の(*)の項目でユーザによる指定ができます。
Size	(表示項目です)	ハードディスクの容量(MB)を表示します。
Cyln(*)	0~65535	シリンダ数を設定します。
Head(*)	0~255	ヘッド数を設定します。
WPcom(*)	0~65535	書き込み補正(Write Precompensation)を開始するヘッド回避シリンダ番号を設定します。
Sec(*)	0~255	1トラック当たりのセクタ数を設定します。
LBA Mode(*)	Off On	LBAモードを使用するかを設定できます。
Blk Mode(*)	Off On	ブロック転送モードを使用するかを設定できます。
PIO Mode(*)	Auto 0、1、2、3、4、5	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータ交換時のデータ転送モードを設定できます。
32Bit Mode	Off On	32ビットIDEデータ転送を使用するかを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Pri Slave ()

3.5インチベイに増設されるIDEデバイス(Primary Slave:モデルによっては追加ハードディスクドライブ)の設定を行います。「Pri Master」と同じ設定です。

Sec Master ()

現在接続されているIDEデバイス(Secondary Master:CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ)が表示されます。「Pri Master」と同じ設定です。本項目の設定は変更しないでください。


Sec Slave ()

5インチベイに増設されているIDEデバイス(Secondary Slave:モデルによってはZipドライブまたはスーパーディスクドライブ)の設定をします。「Pri Master」と同じ設定です。本項目の設定は変更しないでください。

Boot Sector Virus Protection ()

ハードディスクドライブのブートセクタの設定をします。

設定項目	設定内容	説明
Boot Sector Virus Protection	Disabled	ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。書き込み禁止(Enabled)にすると起動セクタをウイルスから保護します。
	Enabled	

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Advanced CMOS Setupの設定

Advanced CMOS Setupの設定

Advanced CMOS Setupでは、DMIイベントログの設定、起動デバイスの設定、その他のハードウェアの機能を設定します。

メモ

各設定内容で起動する装置は次の通りです。

- Disabled 使用しない
- IDE-0 ~ 3 工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ
- Floppy 工場出荷時に内蔵されているフロッピーディスクドライブ
- Super Disk ... 工場出荷時に内蔵されているスーパーディスクドライブまたはZipドライブ
- CDROM 工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ
- SCSI 工場出荷時に内蔵されているSCSIインタフェースボード
- NETWORK ... 工場出荷時に内蔵されているLANボード

設定項目	設定内容	説明
Event log capacity	(表示項目です)	DMIイベントログの容量(サイズ)を表示します。
Event log validity	(表示項目です)	DMIイベントログの有効性を表示します。
View DMI event log	(表示項目です)	【Enter】を押すと、DMIイベントログ情報(履歴)が表示されます。
Clear all DMI event logs	No Yes	DMIイベントログの消去を設定します。消去する(Yes)に設定し、設定を保存して終了しても再起動後は消去しない(No)になります。
Event logging	Disabled Enabled	DMIイベントログの記録を設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Mark DMI events as read	No Yes	DMIイベントログのマーキングを設定します。DMIイベントログがない場合は選択できません。
Quick Boot	Disabled Enabled	コンピュータ起動時のクイックブートの使用を設定します。 「Enabled」の場合、一部のテストをスキップするので、本機の起動時間が短縮されます。
1st Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	本機を起動するために使用するデバイスの優先順位を指定します。起動順位は1st Boot Deviceに指定したディスク装置から順番に起動されます。
2nd Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。


設定項目	設定内容	説明
3rd Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。
4th Boot Device	Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 Floppy Super Disk CDROM SCSI NETWORK	1st Boot Deviceの説明をご覧ください。
Try Other Boot Devices	Yes No	「1st Boot Device」から「4th Boot Device」で設定された以外のデバイスから起動します。
Initial Display Mode	BIOS Silent	BIOSチェック画面のモードを設定します。「BIOS」ではBIOSのチェック情報を表示します。「Silent」ではNECのロゴ画面が表示されます。
Display Mode at Add-On ROM Init	Force BIOS Keep Current	SCSIインタフェースボードなど内蔵ROMを搭載した機器の起動時のROM情報の表示を設定します。「Force BIOS」ではROM情報が表示されます。「Keep Current」ではNECロゴの画面に隠れます。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Access Control	Read-Write Read-Only	フロッピーディスクの読み書きについて設定します。「Read-Only」の場合、書き込み不可、読み込み専用となります。
S.M.A.R.T for Hard Disks	Disabled Enabled	ハードディスクに対してSMART機能を設定します。「Enabled」の場合、ハードディスクの異常を検知します。
BootUp Num-Lock	Off On Auto	コンピュータ起動時にNum Lockするか設定します。「Auto」の場合、起動時にテンキーありキーボード(USB109キーボード、USB98配列キーボード、PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード)が接続されているとNum Lockされます。起動時にUSB小型キーボード(テンキーなし)が接続されているとNum Lockされません。「On」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされます。「Off」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされません。
Floppy Drive Swap	Disabled Enabled	フロッピーディスクドライブのAドライブとBドライブを入れ替える設定をします。本項目の設定は変更しないでください。
Floppy Drive Seek	Disabled Enabled	本機の起動時にフロッピーディスクドライブをチェックするかを設定します。
PS/2 Mouse Support	Disabled Enabled	PS/2マウスの認識を設定します。PS/2キーボードとマウスの場合は「Enabled」に設定されています。本項目の設定は変更しないでください。
System BIOS Cacheable	Disabled Enabled	BIOSシステムのキャッシングを設定します。本項目は変更しないでください。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Hardware Monitor	Disabled Enabled	本機のハードウェアの監視を設定します。「Enabled」に設定して保存すると、再起動時に「Hardware Monitor Setup」の項目が表示されます。詳細については、「Hardware Monitor Setupの設定」(P.158)をご覧ください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

Advanced Chipset Setupの設定

Advanced Chipset Setupの設定

Advanced Chipset Setupでは、USBの機能を設定します。

USB Function

USB機能の有効/無効を設定します。工場出荷時は、有効(Enabled)に設定されています。

USB Legacy Support

USBレガシー機能の有効/無効を設定します。Windows 2000を選択した場合の工場出荷時は、有効(Enabled)です。

Windows NT 4.0を選択した場合の工場出荷時は、キーボードの種類によって、次のようになります。

無効(Disabled) ... PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード

有効(Enabled) ... USB 109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード

Power Management Setupの設定

Power Management Setupの設定

Power Management Setupでは、電力を節約するためのさまざまな設定をします。

Windows 2000の場合、「Video Power Down Mode」、「Hard Disk Power Down Mode」、「Suspend Time Out (Minute)」、「Power Button Function」の設定は、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」「電源オプション」で行ってください。また、項目の右側に()マークが付いている設定項目は、Windows 2000の使用時は設定が無効になります。

参照 ▶ 「電源オプション」の設定 Windows 2000のヘルプ


メモ

「Video Power Down Mode」で設定する「Suspend」とは、VESA (Video Electronics Standards Association) で定義されているディスプレイの省電力モードのことです。VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。

設定項目	設定内容	説明
Power Management / APM	Disabled Enabled	BIOSによる省電力機能(電源管理がAPMモード)の使用を設定します。
Green PC LED Status	Single Color Dual Color	サスペンド時の電源ランプの表示を設定します。「Single Color」はサスペンド時は緑、「Dual Color」はサスペンド時はオレンジです。
Green PC Monitor Power State ()	Suspend Off	サスペンド時の省電力対応のディスプレイの状態を設定します。「Suspend」ではサスペンド状態に、「Off」ではディスプレイの電源を一時的に切ります。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Video Power Down Mode ()	Disabled Suspend	ディスプレイの省電力機能をSuspendモードで使用する(Suspend)/使用しない(Disabled)を設定します。本設定はWindows 98のACPIモード時は無効です。
Hard Disk Power Down Mode ()	Disabled Suspend	ハードディスクの省電力機能をSuspendモードで使用する(Suspend)、使用しない(Disabled)を設定します。
Suspend Time Out(Minute) ()	Disabled 1、2、4、8、10、 20、30、40、50、 60	ディスプレイの省電力機能のタイムアウト時間を分単位で設定します。本機への操作をしない状態で設定した時間が経過すると、サスペンド状態になります。「Disabled」の場合サスペンドしません。本設定はWindows 98のACPIモード時には無効になります。
Keyboard & PS/2 Mouse Access ()	Ignore Monitor	キーボードとPS/2マウスが動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
FDC/LPT/COM Ports Access ()	Ignore Monitor	フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポートへのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
SB & MSS Audio Ports Access ()	Ignore Monitor	別売サウンドカードのオーディオポートへのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
MIDI Ports Access ()	Ignore Monitor	MIDIポートへのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
ADLIB Ports Access ()	Ignore Monitor	ADLIBポートへのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Primary Master IDE Access ()	Ignore Monitor	Primary Masterに接続したIDEデバイス(ハードディスクドライブ)へのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Primary Slave IDE Access ()	Ignore Monitor	Primary Slaveに接続したIDEデバイス(モデルによっては追加ハードディスクドライブ)へのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Secondary Master IDE Access ()	Ignore Monitor	Secondary Masterに接続したIDEデバイス(CD-ROMドライブまたはCD R/RWドライブ)へのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
Secondary Slave IDE Access ()	Ignore Monitor	Secondary Slaveに接続したIDEデバイス(モデルによってはZipドライブまたはスーパーディスクドライブ)へのアクセス中にサスペンド状態へ遷移しないように監視するかを設定します。
PIRQ[A] IRQ Active ()	Ignore Monitor	PCIバス(INT A)のIRQ割り込みを監視して、サスペンド状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[B] IRQ Active ()	Ignore Monitor	PCIバス(INT B)のIRQ割り込みを監視して、サスペンド状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[C] IRQ Active ()	Ignore Monitor	PCIバス(INT C)のIRQ割り込みを監視して、サスペンド状態へ遷移しないようにするかを設定します。
PIRQ[D] IRQ Active ()	Ignore Monitor	PCIバス(INT D)のIRQ割り込みを監視して、サスペンド状態へ遷移しないようにするかを設定します。
System Thermal ()	Ignore Monitor	筐体内温度を監視して、サスペンド状態へ遷移しないようにするかを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Power Button Function ()	On/Off Suspend	詳細については「Power Button Function について」(P.152)をご覧ください。
Restore on AC/Power Loss	Power Off Power On Last State	AC電源(AC100V)が失われ、電源を再投入したときの復旧状態を設定します。「Power Off」はAC電源投入時に電源は入らないように、「Power On」はAC電源投入時に電源が入るように、「Last State」はAC電源が失われたときの状態に設定します。
Resume By PME From Soft Off ()	Disabled Enable	リモート起動(PME)で電源を入れる、レジュームするかを設定します。
Ring Resume From Soft Off ()	Disabled Enable	FAXモデムのリング機能で電源を入れる、レジュームするかを設定します。
RTC Alarm Resume From Soft Off ()	Disabled Enable	内蔵時計(RTC:リアルタイムクロック)で、電源オン、レジュームするかどうかを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

下記の項目は、「RTC Alarm Resume From Soft Off」が有効(Enabled)の場合に設定することができます。

設定項目	設定内容	説明
RTC Alarm Date ()	Every Day 01 ~ 31	内蔵時計の電源を入れる日を設定します。
RTC Alarm Hour ()	00 ~ 23 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1時間単位)を設定します。
RTC Alarm Minute ()	00 ~ 59 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1分単位)を設定します。
RTC Alarm Second ()	00 ~ 59 00	内蔵時計の電源を入れる時間(1秒単位)を設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

「Power Button Function」について

「Power Button Function」は、本体前面にある電源スイッチを「パワーボタン」または「スリープボタン」として利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は「On/Off（パワーボタン）」に設定されています。

- ・「On/Off（パワーボタン）」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「Suspend（スリープボタン）」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってサスペンド/レジューム（スタンバイ/スタンバイから復帰）することができます。

2000... Windows 2000を選択した場合

電源の管理モードがACPIモードのみのため、次のようになります。

「Power Button Function」の設定は無効になり、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」「電源オプション」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になり、次のようになります。

- ・「電源オフ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スタンバイ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。
- ・「休止状態」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって休止状態/休止状態から復帰することができます。

「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を、「電源オフ（工場出荷時の設定値）」から「スタンバイ」または「休止状態」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック

2 「次の中から選んでください」で「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で、強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 2000を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプが、オレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色に点灯し、一瞬だけ緑色に変わり、電源が切れるとランプが切れます。

NT..... Windows NT 4.0を選択した場合
電源の管理モードがAPMモードのみのため、次のようになります。

「Power Button Function」の設定を「On/Off (パワーボタン:工場出荷時の設定)から「Suspend (スリープボタン)に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン「シャットダウン」をクリック
- 2 「シャットダウンする」または「コンピュータをシャットダウンする」をクリック
- 3 「はい」ボタンまたは「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で、強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows NTを起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

- 1** 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、サスペンド状態になります。
- 2** 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプが、オレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1** 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れる前に電源ランプがオレンジ色に点灯し、一瞬だけ緑色に変わった後、点灯しなくなります。

PCI / Plug and Play Setup の設定

PCI / Plug and Play Setup の設定

PCI / Plug and Play Setup では、プラグ&プレイに関する設定をします。

設定項目	設定内容	説明
Plug and Play Aware O/S	No Yes	プラグアンドプレイ対応のOSかどうかを設定します。Windows 2000を選択した場合の工場出荷時は「Yes」、Windows NT 4.0を選択した場合の工場出荷時は「No」です。
Clear NVRAM	No Yes	PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値の初期化を設定します。「Yes」で初期化します。ただし、再起動時には「No」に設定されます。
Primary Graphic Adapter	OnBoard VGA Add-on VGA	プライマリのグラフィックカードの設定をします。「OnBoard VGA」で本体内蔵のグラフィックを、「Add-on VGA」では別売のグラフィックカードを優先して使用します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Peripheral Setupの設定


Peripheral Setupの設定

Peripheral Setupでは、周辺装置に関する設定をします。

設定項目	設定内容	説明
OnBoard FDC	Auto Disabled Enabled	内蔵フロッピーディスクドライブを使用する(Enabled)、使用しない(Disabled:I/Oロックが有効)、自動(Auto)を設定します。
OnBoard Serial Port A	Auto Disabled 3F8/COM1 2F8/COM2 3E8/COM3 2E8/COM4	シリアルポート(COMポート、シリアルコネクタ)の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、I/Oロックが有効になり、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがシリアルポートを使用できないようにします。
OnBoard Parallel Port	Auto Disabled 378 278 3BC	パラレルポート(プリンタポート、パラレルコネクタ)の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、I/Oロックが有効になり、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがパラレルポートを使用できないようにします。
Parallel Port Mode	Normal Bi-Dir EPP ECP	パラレルポートの動作モードを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
EPP Version	EPP 1.9 EPP 1.7	Parallel Port ModeのEPP Versionを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」の場合に設定可能となります。
Parallel Port IRQ	5 7	パラレルポートで使用するIRQを設定します。
Parallel Port DMA Channel	0 1 3	パラレルポートで使用するDMAチャンネルを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「ECP」の場合に設定可能となります。
OnBoard Midi Port	Disabled 330 300 290 292	MIDIポート (MIDI/Joystickコネクタ)の設定をします。
Midi IRQ Select	5 7 9 10	MIDIポート (MIDI/Joystickコネクタ)に割り当てるIRQの設定をします。「OnBoard MIDI Port」の設定が「330」「300」「292」「290」の場合に設定可能となります。
OnBoard Game Port	Disabled 200 208	ゲームポート (MIDI/Joystickコネクタ)の設定をします。
OnBoard IDE	Disabled Primary Secondary Both	IDEコントローラの設定をします。I/Oロックを有効(Disabled)にするととき以外は、設定内容を変更しないでください。
OnBoard AC'97 Audio	Enabled Disabled	内蔵サウンド機能の使用を設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューの「Peripheral Setup」で以下のI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブ(OnBoard FDC)、シリアルポート(OnBoard Serial Port A)、パラレルポート(OnBoard Parallel Port)です。




Hardware Monitor Setupの設定

Hardware Monitor Setupの設定

Hardware Monitor Setupでは、ハードウェアの監視機能を設定します。「Advanced CMOS Setup」「Hardware Monitor」を「Enabled」に設定後、設定を保存して再起動するとBIOSセットアップメニューの初期画面に表示されます。

設定項目	設定内容	説明
Chassis Intrusion	Disabled Enabled Reset	筐体の開閉監視を設定します。「Hardware Monitor」を「Enabled」に設定すると表示されます。
CPU Temperature Detected by	CPU Thermistor	CPUの温度監視を設定します。「Hardware Monitor」を「Enabled」に設定すると表示されます。本項目は変更しないでください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



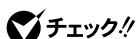
Auto-Detect Hard Disksの設定

Auto-Detect Hard Disksでは、接続された各IDE機器を自動的に設定します。設定できる項目は、「Standard CMOS Setupの設定」(P.139)と同じです。ユーザパスワードでも設定可能です。

Security Setupの設定

Security Setupの設定

Security Setupでは、スーパーバイザパスワードおよびユーザパスワードの設定をします。パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、6文字以内でなければなりません。また、大文字/小文字の区別はありません。




チェック!!

ご購入元、Bit-INN、NECフィールドディング支店・営業所に本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

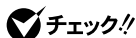
項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

設定項目	設定内容	説明
Password Check	Setup Always	パスワードを入力する場面を設定します。「Setup」ではBIOSセットアップメニュー起動時に、「Always」ではシステム起動時とBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力を要求します。
Change User Password()	(パスワード入力)	ユーザパスワードの設定を行います。スーパーバイザパスワードが設定されていないときは設定できません。
Change Supervisor Password	(パスワード入力)	スーパーバイザパスワードの設定を行います。設定した場合、BIOSセットアップメニュー起動時にスーパーバイザパスワードを入力する必要があります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

パスワードの解除(パスワードを忘れた場合)

設定したスーパーバイザパスワード、ユーザパスワードを忘れると、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れてしまった場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。



チェック!!

ストラップスイッチを解除すると設定がデフォルト値に戻ります。



参照 『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録「ストラップスイッチの設定」

SCSI設定

この章では、SCSI SELECTについて説明します。SCSI SELECTは、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルのユーティリティで、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)に対してさまざまな設定を行うものです。

この章の読み方

「SCSI SELECTについて」を読んだ後に、「SCSI SELECTでの設定項目」をお読みください。

この章の内容

SCSI SELECTについて	162
SCSI SELECTでの設定項目	163



SCSI SELECTについて

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応) PC-M-SCUWS2 が標準で内蔵されているモデルでは、Ultra SCSIインタフェースに対してさまざまな設定を行うためのユーティリティとして、SCSI SELECTが搭載されています。ここではSCSI SELECTの使用方法や注意事項を説明します。

SCSI SELECTでの設定が必要な場合

SCSI SELECTを使用して設定することが必要になるのは次の場合です。

接続されているSCSI機器のSCSI IDを変更した場合

使用するSCSI機器を増設・変更した場合

これらの場合、SCSI SELECTを使用して、データ転送に関する設定変更や、使用するSCSI機器によっては低レベルフォーマットを行う必要があります。

SCSI SELECTを使用するときの注意

- SCSI SELECTを使用して設定を変更するためには、SCSIに関する知識を必要とすることが多数あります。設定する内容を十分理解した上で変更してください。間違った設定を行うと、データの破壊や本体が起動しないなどのトラブルの原因となります。
- SCSI SELECTで可能なデータ転送に関する設定は、接続しているSCSI機器の種類、台数、総ケーブル線長によって変わります。これらの制限に関しては、『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録の「別売のSCSIインタフェース機器の増設」をご覧ください。
- ディスク装置に低レベルフォーマットを行う場合は、誤って他のSCSI機器をフォーマットしてしまわないように注意してください。ディスク装置を低レベルフォーマットすると、すべてのデータが消えてしまいます。
- 内蔵Ultra SCSIインタフェースボードを持つ本機に別売のSCSIボードを実装して使用する場合、起動させたいSCSI機器を接続しているSCSIボードのBIOSのみ起動する(有効)に設定し、それ以外のすべてのSCSIボードのBIOSは起動しない(無効)に設定してください。



参照 SCSIボードのBIOSの起動について 「SCSI SELECTでの設定項目」(P.163)

SCSI SELECTでの設定項目

ここではSCSI SELECTで設定可能なすべての項目について説明します。

SCSI SELECTの設定項目一覧と初期設定

SCSI SELECTで設定できる項目と、その工場出荷時の設定値は次の通りです。また、SCSI SELECTでは低レベルフォーマットとディスクのペリファイアを行うことができます。

SCSI SELECTの機能		工場出荷時の設定 Ultra SCSI(Wide対応)
SCSIボードの設定	ボードのSCSI ID設定	7
	パリティ機能の有効/無効設定	Enabled(有効)
	終端機能設定	Automatic(自動)
	起動チャンネルの設定	A First
	起動SCSI IDを指定	0
	起動LUNを指定	0
デバイスの設定	転送速度の設定	40.0MB/Sec
	Wide転送の有効/無効設定	Yes(有効)*
	ディスクコネクの有効/無効設定	Yes(有効)
	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	No(無効)
	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	N/C(無効)
	マルチプルLUNの有効/無効設定	No(無効)
	BIOSスキャンの有効/無効設定	Yes(有効)
SCSIボードの拡張設定	SCAMの有効/無効設定	Disabled(無効)
	SCSIバスリセットの有効/無効設定	Enabled(有効)
	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	Enabled(有効)
	1GB以上デバイスサポートの有効/無効設定	Enabled(有効)
	Verbose/Silent設定	Verbose
	BIOSの有効/無効設定	Enabled(有効)
	リムーバブルディスク設定	Boot Only(起動デバイスのみ)
	起動CD-ROM機能有効/無効設定	Enabled(有効)
	INT13サポートの有効/無効設定	Enabled(有効)
フォーマット/ ペリファイ	低レベルフォーマット	
	ディスクのペリファイ	

工場出荷時の設定は通常使用する上で、推奨する設定になっています。

(*を除く)

*は接続するSCSI機器によって設定を変更する必要があります。

SCSI SELECTの画面の説明

SCSI SELECTの画面はすべて英語で表示されます。ここではSCSI SELECTを起動して表示される各画面に対して次のように説明しています。

画面名称

[SCSI SELECT 起動画面]

表示画面

AHA-29XX XXXX at Bus:xxh Device:xxh

Would you like to configure the host adapter, or run the SCSI disk utilities? Select the option and press<Enter>.
Press<F5> to switch between color and monochrome mode.

Options

Configure/View Host Adapter Settings

SCSI Disk Utilities

キー操作

【 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

<選択肢>

I ボードの設定を行う。 [コンフィグレーション画面【P.167】へ

II フォーマット/ペリファイを行う。 ② [ディスクユーティリティ起動画面【P.182】へ

【ESC】前の画面に戻る。 [ユーティリティ終了確認画面【P.182】へ

選択肢

画面説明

画面説明

- ・ Configure/View Host Adapter Settings (ホストアダプタ設定) - この項目を選択するとボードの各設定を変更する項目画面が表示されます。
- ・ SCSI Disk Utilities (SCSIディスクユーティリティ) - この項目を選択すると、接続されているSCSIインタフェース機器に対して低レベルフォーマットを行う、またはペリファイを行う画面が表示されます。

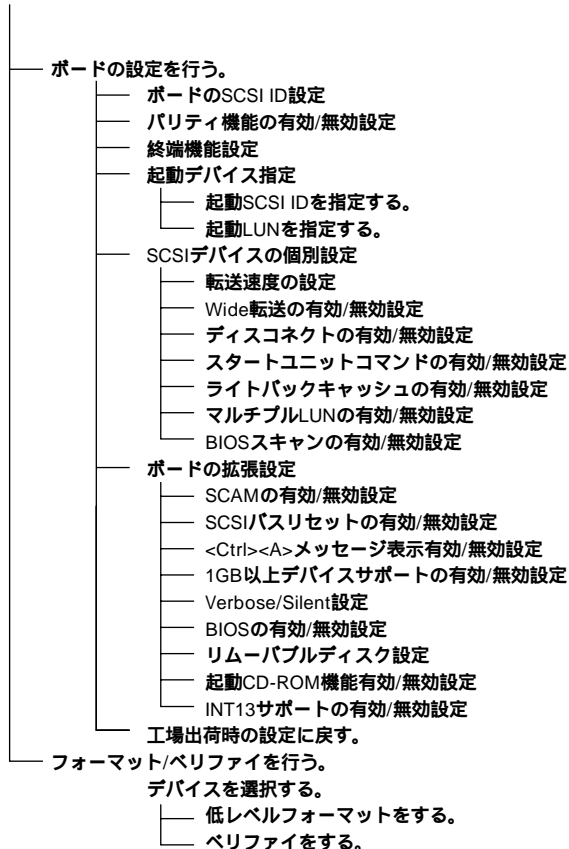
各部の説明

- 画面名称** : 説明が書かれている各画面の説明です。
- 表示画面** : SCSI SELECTを起動し、操作したときにディスプレイに表示される画面(一部)です。
- キー操作** : 表示画面で行うキー操作について説明しています。
- 選択肢** : 画面で選択可能な選択肢を選択した場合、次にどの画面説明に進めばよいかを示す画面名称を記述しています。
- 画面説明** : 画面に表示されている選択肢の説明をしています。

SCSI SELECTの構造

SCSI SELECTは次のような階層構造になっています。設定や処理を行う場合はSCSI SELECTを起動し、下図を参照して各設定項目の画面へ移動してください。

SCSI SELECTを起動する。



SCSI SELECTを起動する

1 本体の電源を入れる

「NEC」のロゴ画面が表示した後に、次の画面が表示されます。

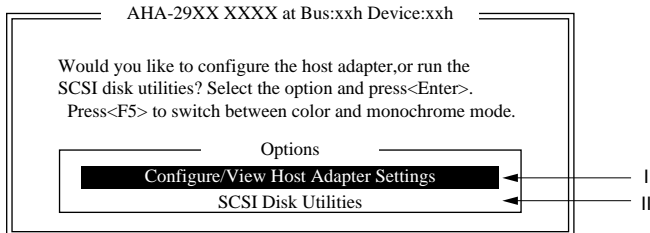
```
Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx
(c)1998 Adaptec, Inc. All Right Reserved
```

Press<Ctrl><A>for SCSI Select (TM) Utility!

2 【Ctrl】を押しながら【A】を押す

SCSI SELECTが起動し、次の画面が表示されます。もし、画面が表示されずOSが起動してしまった場合は、OSを正常終了した後にシステムを再起動させ、少し早めに【Ctrl】を押しながら【A】を押してください。

[SCSI SELECT 起動画面]



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

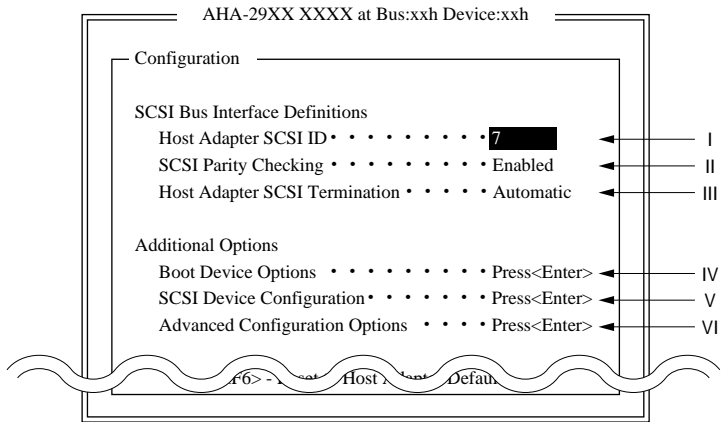
<選択肢>

- | | | |
|----|------------------|----------------------------|
| I | ボードの設定を行う。 | 【コンフィグレーション画面】(P.167)へ |
| II | フォーマット/ペリファイを行う。 | ②【ディスクユーティリティ起動画面】(P.182)へ |
| | 【ESC】前の画面に戻る。 | 【ユーティリティ終了確認画面】(P.182)へ |

画面説明

- Configure/View Host Adapter Settings(ホストアダプタ設定)
 - この項目を選択するとボードの各設定を変更する項目画面が表示されます。
- SCSI Disk Utilities(SCSIディスクユーティリティ)- この項目を選択すると、接続されているSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行う、またはペリファイを行う画面が表示されます。
- 【F5】を押すとモノクロモードとカラーモードを切り換えることができます。

[コンフィグレーション画面]



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【 Enter 】を押してください。工場出荷時の設定に戻す場合は【 F6 】を押してください。

< 選択肢 >

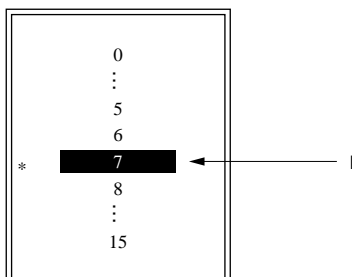
I	ボードのSCSI ID設定	[ボードのSCSI ID設定画面] (P.168) ^
II	パリティ機能の有効/無効設定	[パリティ有効/無効設定画面] (P.169) ^
III	終端機能設定	[終端機能設定画面] (P.169) ^
IV	起動デバイス指定	[起動コンフィグレーション起動画面] (P.170) ^
V	SCSIデバイスの個別設定	[SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.172) ^
VI	ボードの拡張設定	[拡張設定画面] (P.177) ^
	【 F6 】 工場出荷時の設定に戻す。	[初期設定変更画面] (P.181) ^
	【 ESC 】 前の画面に戻る。	[SCSI SELECT 起動画面] (P.164) ^
	【 ESC 】 設定の保存 (設定変更した場合)	[設定保存画面] (P.181) ^

画面説明

- Host Adapter SCSI ID (ホストアダプタSCSI ID) - この項目を選択するとボードのSCSI IDを変更する画面が表示されます。
工場出荷時の設定はSCSI ID# 7に設定されています。これはSCSIバスの中でボードが最も高い優先順位を持つ設定です。このまま変更しないで使用することを推奨します。

- SCSI Parity Checking(SCSIパリティチェック)- この項目を選択するとボードのパリティチェック機能を有効(Enabled)/ 無効(Disabled)に設定する画面が表示されます。
パリティチェックは、SCSIバス上のデータ転送が正確に行われたかをチェックする機能です。ボードにパリティ機能をサポートしないSCSIデバイスを接続する場合は、無効にしてください。ほとんどのSCSIデバイスは、パリティ機能をサポートしています。SCSIデバイスがサポートしているかわからない場合は、SCSIデバイスの説明書を参照してください。
- Host Adapter SCSI Termination(ホストアダプタSCSIターミネーション)- この項目を選択すると、ボードの終端状態を変更する画面が表示されます。本機のボードのターミネーション設定は、Automatic(自動)のままにしてください。
- Boot Device Options(ブートデバイスオプション)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスを指定する画面が表示されます。
- SCSI Device Configuration(SCSIデバイスコンフィグレーション)- この項目を選択すると、ボードと接続しているSCSIデバイス間の設定を行う画面が表示されます。
- Advanced Configuration Options(アドバンスドコンフィグレーションオプション)- この項目を選択すると、ボードの拡張設定の変更を行う画面が表示されます。

[ボードのSCSI ID設定画面]



【 **X** 】を使用して、変更したい値を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

1 ボードのSCSI ID設定を行う。
【ESC】変更を中止する。

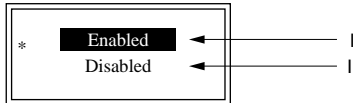
【コンフィグレーション画面【P.167】へ
【コンフィグレーション画面【P.167】へ

画面説明

画面に表示されている0～15の値はボードに設定可能なSCSI IDです。

ここで、値を選択することによりボードのSCSI IDを変更します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[パリティ有効/無効設定画面]

【 I 】を使用して、変更したい値を反転させて【Enter】を押してください。

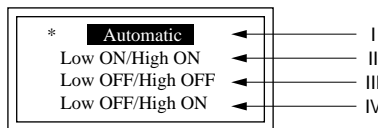
< 選択肢 >

- | | | |
|-------|---------------|-----------------------------|
| I | パリティ機能を有効にする。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| II | パリティ機能を無効にする。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |

画面説明

パリティチェック機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[終端機能設定画面]

【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|-------|----------------|-----------------------------|
| I | 自動に設定する。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| II | すべて有効にする。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| III | すべて無効にする。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| IV | 上位8ビットだけ有効にする。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |

画面説明

終端設定を自動にする場合は、Automaticを選択してください。

終端設定をすべて有効にする場合は、Low ON/High ONを選択してください。

終端設定をすべて無効にする場合は、Low OFF/High OFFを選択してください。

終端設定をデータビットの上位8ビットのみ有効にする場合は、Low OFF/High ONを選択してください。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

・ 終端設定について

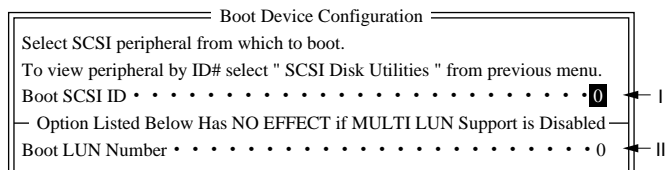
SCSIインタフェースは電送路の両端を終端する必要があります。お使いのボードにより、下記のコネクタがあります。これらのコネクタに接続するSCSIデバイスの構成により終端設定は変わります。Automatic以外の設定を行う場合は以下の表を参照して正しく終端設定を行ってください。

コネクタ 終端設定	内蔵Wide コネクタ	内蔵Narrow コネクタ	外付け コネクタ
Low ON/High ON		-	-
	-		-
	-	-	
Low OFF/High ON			-
	-		
Low OFF/High OFF		-	

:SCSIデバイスを接続している -:SCSIデバイスを接続しない

Automaticの設定にすると、ボードが自動的にSCSIデバイスの接続状況を判断して、適した終端設定を行います。

[起動コンフィグレーション起動画面]



【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

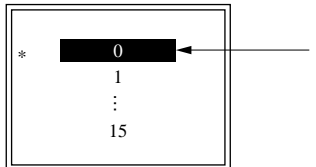
< 選択肢 >

- | | | |
|----|-----------------|----------------------------|
| I | 起動SCSI IDを指定する。 | [起動SCSI ID設定画面] (P.171)へ |
| II | 起動LUNを指定する。 | [起動LUN設定画面] (P.172)へ |
| | [ESC] 前の画面へ戻る。 | [コンフィグレーション画面] (P.167)へ |

画面説明

- Boot SCSI ID(ブートSCSI ID)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを指定する画面が表示されます。ここで選択されたSCSI IDは起動デバイスで構成されたIDと対応している必要があります。
- Boot LUN Number(ブートLUNナンバー)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を指定する画面が表示されます。起動デバイスに複数のLUNを持っている場合は、起動させたいSCSIデバイスのLUNを指定する必要があります。(このとき、Multiple LUN Supportが有効になっている必要があります。)

[起動SCSI ID設定画面]



【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

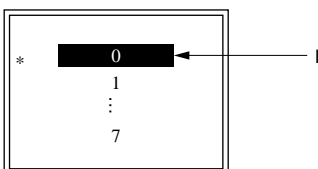
- | | | |
|---|-------------------|-------------------------------|
| I | 起動するSCSI IDを選択する。 | [起動コンフィグレーション起動画面] (P.170)へ |
| | [ESC] 前の画面へ戻る。 | [起動コンフィグレーション起動画面] (P.170)へ |

画面説明

画面に表示されている0～15の中から、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを選択します。

- * 工場出荷時の設定値を表しています。

[起動LUN設定画面]



【 **X** 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- I 起動するLUNを選択する。 [起動コンフィグレーション起動画面 (P.170)へ
- 【ESC】前の画面へ戻る。 [起動コンフィグレーション起動画面 (P.170)へ

画面説明

画面に表示されている0~7の中から、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[SCSIデバイスコンフィグレーション画面]

SCSI Device Configuration										
SCSI Device ID	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7		
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	← I	
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← II	
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← III	
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← IV	
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	← V	
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled										
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	← VI	
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← VII	
SCSI Device ID	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14	#15		
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	← I	
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← II	
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← III	
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← IV	
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	← V	
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled										
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	← VI	
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	← VII	

【 **X** **X** **X** 】を使用して、接続されているSCSIデバイスのSCSI IDに対応した設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

I	転送速度の設定	[転送速度設定画面] (P.175)へ
II	Wide転送の有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.175)へ
III	ディスク接続の有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.175)へ
IV	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.175)へ
V	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	[デバイス有効/無効/変化なし選択画面] (P.176)へ
VI	マルチプルLUNの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.175)へ
VII	BIOSスキャンの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.175)へ
	【ESC】前の画面に戻る。	[コンフィグレーション画面] (P.167)へ

画面説明

設定可能なデータ転送方式、データバス幅、転送速度は次の通りです。

SCSIインタフェース		ユーティリティで設定可能な値			
		転送方式	データバス幅 [単位 : ビット]	転送速度 [単位 : MB / 秒]	
Wide	Ultra SCSI	非同期	8	---	*
			16	---	*
		同期	8	20.0	10.0
				16.0	8.0
	16	8	13.4	6.7	
			5.0	5.0	
	SCSI-2	非同期	8	---	*
			16	---	*
同期		8	10.0	6.7	
			8.0	5.0	
16	8	20.0	16.0		
		13.4	10.0		
Narrow	Ultra SCSI	非同期	8	---	*
		同期	8	20.0	10.0
				16.0	8.0
	13.4	6.7	5.0	5.0	
					5.0
	SCSI-2	非同期	8	---	*
同期		8	10.0	6.7	
			8.0	5.0	

* 転送方式を「非同期」に設定した場合、転送速度を設定してもその値は、無効となります。



チェック!!

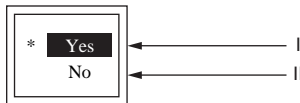
- ・ 接続するSCSI機器がどのインタフェースに該当するかは、お使いのSCSI機器に添付されているマニュアルをご覧ください。
- ・ 接続するSCSI機器がどのSCSIインタフェースに該当するSCSI機器であるか不明の場合は、「Narrow」でかつ「SCSI-2」インタフェース機器として設定を行ってください。

- Sync Transfer Rate(最大同期転送速度)- この項目を選択すると、ボードとデバイス間の最大同期転送速度を設定する画面が表示されます。
- Initiate Wide Negotiation(Wide転送の取り決め)- この項目を選択すると、Wide転送機能の有効(Yes)無効(No)を設定する画面が表示されます。
Wide転送を行う(Yes)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して16ビットの幅でデータ転送を行います。
Wide転送を行わない(No)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して8ビットの幅でデータ転送を行います。
Wide転送するには、接続されているSCSIデバイスがWideに対応している必要があります。
Wideデバイスに対しては、有効(Yes)無効(No)どちらでも設定が可能ですが、Narrowデバイスに対しては、必ず無効(No)に設定してお使いください。
- Enable Disconnection(ディスクコネクタを有効にする)- この項目を選択すると、ディスクコネクタ機能の有効(Yes)無効(No)を設定する画面が表示されます。
ディスクコネクタを行う設定になっているとSCSIデバイスが一時的に切り離され、その間ボードはSCSIバスを使い、他の操作を行うことができます。
- Send Start Unit Command(スタートユニットコマンドを送る)
- この項目を選択すると、スタートユニットコマンド機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
ほとんどのデバイスでこのような設定を行う必要はありません。
スタートユニットコマンドを送る(Yes)設定にしている場合は、本機の起動時、ボードがコマンドを送ることによって接続しているSCSIデバイスが1台ずつ電源ONとなります。これにより本機の電源にかかる負荷を軽減します。
スタートユニットコマンドを送らない(No)設定にしている場合は、本機の起動時に接続されているSCSIデバイスすべてが一緒に電源ONになります。
この機能を使用するためには、接続するSCSIデバイスもこの機能に対応していなくてはなりません。
- Enable Write Back Cache(ライトバックキャッシュを有効にする)- この項目を選択すると、ライトバックキャッシュ機能の有効(Yes)無効(No)変化なし(N/C)を設定する画面が表示されます。

- BIOS Multiple LUN Support(BIOSマルチプルLUNサポート)
- この項目を選択すると、マルチプルLUNサポート機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。起動デバイスに複数のLUNがある場合は、この設定を有効にする(Yes)にしてください。
- Include in BIOS Scan(BIOSスキャン)- この項目を選択すると、BIOSスキャン機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
BIOSスキャンを行わない(No)設定にすると、BIOSを使用しているOS上からデバイスが認識されなくなります。
BIOSスキャンを行う(Yes)設定で使用することを推奨します。

✓チェック!! イメージスキャナ、DATユニットを接続する場合は、イメージスキャナ、DATユニットに接続しているSCSI ID番号に対応した「Include in BIOS Scan」の設定を、必ず「No」に設定してください。

[デバイス有効/無効選択画面]



【 X 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

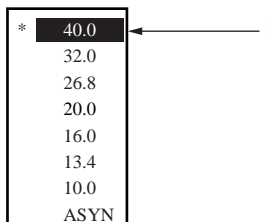
- | | | |
|----|---------------|-----------------------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.172)へ |
| II | 設定を無効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.172)へ |
| | 【ESC】変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.172)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Yes)/無効(No)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[転送速度設定画面]



【 **X** 】を使用して、変更したい転送速度の値を反転させ、【Enter】を押してください。


< 選択肢 >

- | | | |
|-------|------------|-----------------------------------|
| I | 転送速度を選択する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |

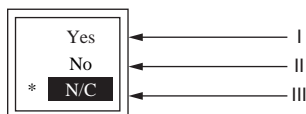
画面説明

画面に表示されている転送速度の中から、デバイスに設定可能な範囲内で値を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

 **チェック!!** データバス幅の設定によって、設定できる転送速度が変わります。

[デバイス有効/無効/変化なし選択画面]



【 **X** 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|-------|-------------|-----------------------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |
| II | 設定を無効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |
| III | 設定を変化なしにする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.172)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の**有効(Yes)**、**無効(No)**、**変化なし(N/C)**を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[拡張設定画面]

Advanced Configuration Options	
Plug and Play SCAM Support	Disabled ← I
Reset SCSI Bus at IC Initialization	Enabled ← II
Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization	Enabled ← III
Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte	Enabled ← IV
Verbose/Silent Mode	Verbose ← V
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled	
Host Adapter BIOS	Enabled ← VI
Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks	Boot Only ← VII
BIOS Support for Bootable CD-ROM	Enabled ← VIII
BIOS Support for Int13 Extensions	Enabled ← IX

【 X 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

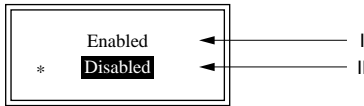
I	SCAMの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
II	SCSIバスリセットの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
III	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
IV	1GB以上サポートの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
V	Verbose/Silentの有効/無効設定	[Verbose/Silent選択画面] (P.179)へ
VI	BIOSの有効/無効設定	[BIOSの有効/無効設定画面] (P.179)へ
VII	リムーバブルディスク設定	[リムーバブルディスク設定画面] (P.180)へ
VIII	起動CD-ROM機能有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
IX	INT13サポートの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.179)へ
【ESC】変更を中止する。		[コンフィグレーション画面] (P.167)へ

画面の説明

- Plug and Play SCAM Support(SCAM機能サポート)- この項目を選択すると、SCAM機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
 SCAM機能を使用する(Enabled)に設定した場合、ボードに接続されているSCSIデバイスのID番号が自動的に設定されます。
 ただし、この機能を使用するためには、接続したSCSIデバイスがSCAM機能に対応していません。
- Reset SCSI Bus at IC Initialization(SCSIバスリセット時のIC初期化)- この項目を選択すると、SCSIバスリセット時のIC初期化機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
 この機能は、Plug and Play SCAM Support設定でSCAM機能を使用する設定にした場合必ず、有効(Enabled)に設定してください。SCAM機能を使用しない場合は、無効(Disabled)に設定してください。

- Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization(Ctrl-A メッセージの表示)- この項目を選択すると、起動時に「Press<Ctrl><A> for SCSI Select(TM)Utility!」メッセージを表示する機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。起動時に「Press<Ctrl><A> for SCSI Select(TM)Utility!」を表示しない(Disabled)設定にしても、起動時に【Ctrl】を押しながら【A】を押すとユーティリティは起動します。
- Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte(DOSで1GB以上のドライブ使用)- この項目を選択すると、1GB以上の大容量デバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定することができます。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。
- Verbose/Silent Mode(起動時のバナー表示)- この項目を選択すると、起動時に「Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx...」のメッセージを表示する機能の有効(Verbose)/無効(Silent)を設定する画面が表示されます。起動時にメッセージを表示しない(Silent)を設定しても、起動時に【Ctrl】を押しながら【A】を押すとユーティリティは起動します。
- Host Adapter BIOS(ホストアダプタBIOS)- この項目を選択すると、SCSI-BIOSの有効(Enabled)/無効(Disabled:NOT scan)/無効(Disabled:scan bus)を設定することができます。この機能を無効(Disabled:NOT scan)/無効(Disabled:scan bus)にすると、ボードに接続されているSCSIデバイスからの起動はできなくなります。無効(Disabled:NOT scan)にすると、scan busも無効になります。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。
- Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks(リムーバブルディスクサポート)- この項目を選択すると、BIOS上でのリムーバブルディスクの認識設定を変更する画面が表示されます。
- BIOS Support for Bootable CD-ROM(起動CD-ROMのBIOSサポート)- この項目を選択すると、CD-ROMドライブ起動機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
- BIOS Support for Int13 Extensions(BIOSのINT13サポート)
 - この項目を選択すると、BIOSが1024シリンダより大きい容量のデバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)/無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。

[オプション有効/無効選択画面]



【 **■** 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

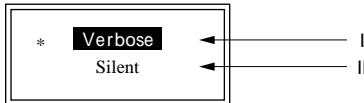
- | | | |
|----|----------------|--------------------|
| I | 選択した機能を有効にする。 | [拡張設定画面] P.177 > |
| II | 選択した機能を無効にする。 | [拡張設定画面] P.177 > |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | [拡張設定画面] P.177 > |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。変更したいモードによって異なります。

[Verbose/Silent選択画面]



【 **■** 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

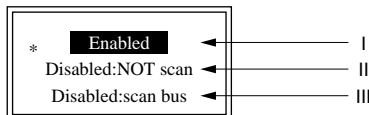
- | | | |
|----|---------------------------|--------------------|
| I | メッセージを表示(Verbose)に設定する。 | [拡張設定画面] P.177 > |
| II | メッセージを表示しない(Silent)に設定する。 | [拡張設定画面] P.177 > |
| | 【ESC】 変更を中止する。 | [拡張設定画面] P.177 > |

画面説明

前の画面で選択した機能のVerbose、Silentを選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[BIOSの有効/無効設定画面]



【 **X** 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

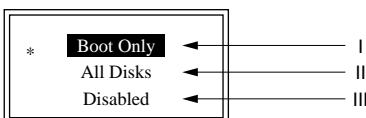
- | | | |
|----------------|----------------------|---------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| II | 設定を無効、scan bus無効にする。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| III | 設定を無効、scan bus有効にする。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| 【ESC】 変更を中止する。 | | [拡張設定画面] (P.177)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の**有効 (Enabled)**、**無効 (Disabled)** を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[リムーバブルディスク設定画面]



【 **X** 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

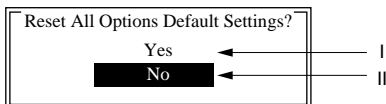
- | | | |
|----------------|-----------------------------|---------------------|
| I | 起動デバイスのみハードディスクに設定する。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| II | 全てのリムーバブルディスクをハードディスクに設定する。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| III | 無効に設定する。 | [拡張設定画面] (P.177)へ |
| 【ESC】 変更を中止する。 | | [拡張設定画面] (P.177)へ |

画面説明

- ・ 起動デバイスとして指定されるリムーバブルデバイスだけを、ハードディスクとして認識させる場合は、**Boot Only (起動のみ)** を選択してください。
 - ・ BIOSがサポートするすべてのリムーバブルデバイスをハードディスクとして認識させる場合は、**All Disks (ディスクすべて)** を選択してください。
 - ・ リムーバブルディスクをハードディスクとして認識させない場合は、**Disabled (無効)** を選択してください。この設定を行うと、リムーバブルディスクを認識させるために、ソフトウェアのドライバが必要となります。
- * 工場出荷時の設定値を表しています。

- チェック!!** ハードディスクとして認識させた場合は、リムーバブルディスクの媒体を取り出さないでください。

[初期設定変更画面]



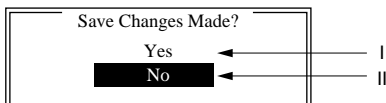
【 I 】 を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >	
I	工場出荷時の設定に戻す。 [コンフィグレーション画面] (P.167)へ
II	変更を中止する。 [コンフィグレーション画面] (P.167)へ

画面説明

すべての設定を工場出荷時の設定に戻す(Yes)、変更を中止する(No)のどちらかを選択してください。

[設定保存画面]



【 I 】 を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

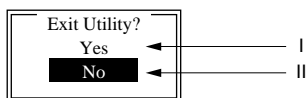
< 選択肢 >	
I	変更した設定を保存する。 [SCSI SELECT起動画面] (P.166)へ
II	変更した設定を保存しない。 [SCSI SELECT起動画面] (P.166)へ

画面説明

変更した値を保存する(Yes)、中止する(No)のどちらかを選択してください。

中止する(No)を選択すると、変更した設定はすべて変更前に戻ります。

[ユーティリティ終了確認画面]



【 **X** 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- I SCSI SELECTを終了する。 ②[再起動画面]へ
- II SCSI SELECTを終了しない。 [SCSI SELECT起動画面] [P.166]へ

画面説明

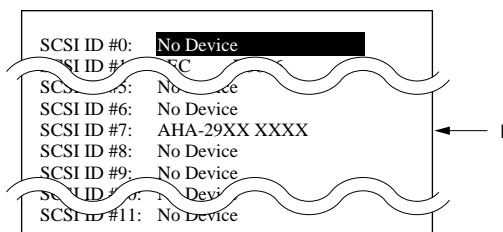
SCSI SELECTを終了する(Yes)、終了しない(No)を選択してください。

②[再起動画面]

Please press any key to reboot

このメッセージが画面に表示されたら、【Enter】を押してください。本体が再起動し、設定が有効になります。

②[ディスクユーティリティ起動画面]



【 **X** 】を使用して、処理を行いたいSCSIデバイスを反転させて【Enter】を押してください。このとき、デバイスは、デバイス名称ではなく、必ず設定されているSCSI ID設定を元にして選択してください。(本ボードに対してフォーマットまたはベリファイ処理を行うことはできません。)

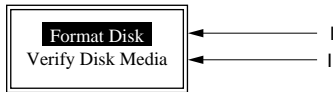
< 選択肢 >

- I デバイスを選択する。 ③[フォーマット/ベリファイ選択画面] [P.183]へ
- 【ESC】変更を中止する。 [SCSI SELECT起動画面] [P.166]へ

画面説明

ボードに接続されているSCSIデバイスの一覧をSCSIデバイスが返す情報を元に表示しています。(SCSI ID #7: AHA-29XX XXXXは本ボードを示しています。)

接続しているSCSIデバイスの種類や、ボードの設定によって表示内容が異なります。また、ここで表示されるSCSIデバイスの名称は、使用している製品名と一致しないことがあります。

⑳[フォーマット/ベリファイ選択画面]

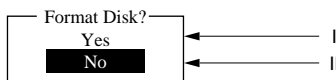
【 I 】を使用して、行いたい処理項目を反転させて**【Enter】**を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|----|------------|------------------------|
| I | フォーマットをする。 | ㉓[フォーマット確認画面1]へ |
| II | ベリファイをする。 | ㉔[ベリファイ確認画面](P.185)へ |

画面説明

- Format Disk(フォーマットディスク)- この項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行うことができます。
- Verify Disk Media(ベリファイディスクメディア)- この項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対してベリファイを行うことができます。

㉔[フォーマット確認画面1]

【 I 】を使用して、項目を反転させて**【Enter】**を押してください。

< 選択肢 >

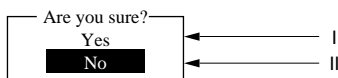
- | | | |
|----|--------------|------------------------------|
| I | フォーマットをする。 | ㉓[フォーマット確認画面2](P.184)へ |
| II | フォーマットを中止する。 | ㉔[ディスクユーティリティ起動画面](P.182)へ |

画面説明

低レベルフォーマット処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。本当に低レベルフォーマットを行うデバイスであることを確認の上、フォーマットを行う(Yes)中止する(No)のどちらかを選択してください。

- ☑ **チェック!!**
- ・ フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
 - ・ フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②5[フォーマット確認画面2]



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

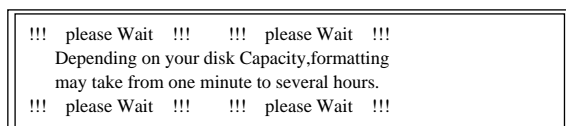
- I フォーマットをする。 ②6[フォーマット中画面]へ
- II フォーマットを中止する。 ②6[ディスクユーティリティ起動画面](P.182)へ

画面説明

再度、低レベルフォーマットを行うかどうかを確認を求めてきますので、再度、SCSI ID、デバイス情報、そして容量等を確認の上、フォーマット処理を行う(Yes)処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

- ☑ **チェック!!**
- ・ フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
 - ・ フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②6[フォーマット中画面]



フォーマットが終了すると、②7[フォーマット終了画面]が表示されます。

画面説明

低レベルフォーマットが開始されます。そのまま、しばらくお待ちください。

接続されているSCSIデバイスの容量によって数分から数時間かかることがあります。

⑳[フォーマット終了画面]

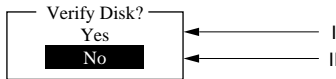


何かキーを押すと㉔[ディスクユーティリティ起動画面] (P.182)へ戻ります。

画面説明

低レベルフォーマットが正常に終了するとフォーマットは完了しました(Formatting Complete)と表示されます。

㉑[ベリファイ確認画面]



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

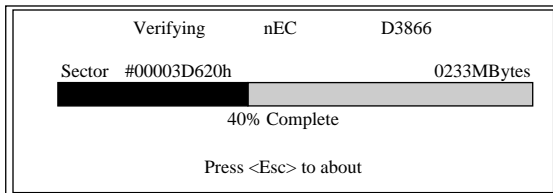
- I ベリファイをする。 ㉑[ベリファイ中画面]へ
- II ベリファイを中止する。 ㉔[ディスクユーティリティ起動画面] (P.182)へ

画面説明

ベリファイ処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。

ベリファイ処理を行うか再度確認してきますので、ベリファイ処理を行う(Yes)、処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

㉒[ベリファイ中画面]



【Esc】を押すと処理を中止することができます。

ベリファイが終了すると㉓[ベリファイ終了画面]が表示されます。

< 選択肢 >

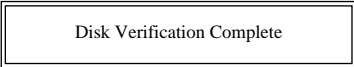
【ESC】処理を中止する。

③①【ベリファイ中止確認画面】へ

画面説明

ベリファイ処理が開始されます。画面中央のバーが右へ進んで行き、実施状況を画面に表示しています。

③①【ベリファイ終了画面】



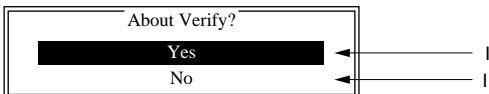
Disk Verification Complete

何かキー押すと②【ディスクユーティリティ起動画面】(P.182)に戻ります。

画面説明

ベリファイが正常に終了すると、ディスク調査は完了しました(Disk Verification Complete)と表示されます。

③①【ベリファイ中止確認画面】



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

I ベリファイを中止する。

②②【ディスクユーティリティ起動画面】(P.182)へ

II ベリファイを続行する。

②③【ベリファイ中画面】(P.185)へ

画面説明

ベリファイ処理中止を行うか再度確認を求めてくるので、ベリファイを中止する(Yes)、ベリファイを続行する(No)のどちらかを選択してください。

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	188
割り込みレベル・DMAチャンネル	201
本機のお手入れ	203

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧



MA86T/C、MA73T/C、MA66T/C本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名	MA86T/C	MA73T/C	MA66T/C
CPU	CPU種別		
	Intel® Pentium® IIIプロセッサ		
	クロック周波数		866MHz
	内蔵キャッシュメモリ		32KB
	一次	733MHz	667MHz
	二次	256KB	
	システムバス		
	133MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)		
	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM		
	最大512MB DIMMスロット×2		
	ディスプレイキャッシュ		
	4MB		
	ビデオRAM		
	メインRAMと共有して使用(メインRAMから8~11MB占有、表示領域として使用されるのは一部)		
表示機能	ウインドウアクセラレータ		
	Intel® 810E Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示		
	640×480ドット 最大1,677万色		
	800×600ドット 最大1,677万色		
	1,024×768ドット 最大1,677万色		
	1,280×1,024ドット 最大1,677万色		
	1,600×1,200ドット 最大256色		
	(使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ またはスーパーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ×1	

機種名	MA86T/C		MA73T/C		MA66T/C	
補助記憶装置	ハードディスクドライブ		UltraATA対応、SMART機能対応			
	出荷時ソフトウェア占有量	Windows 2000選択時	搭載するメモリの容量やセクション内容により異なります アプリケーションなしモデル:約1,260MB Office 2000 Personalモデル:約1,540MB Office 2000 Professionalモデル:約1,560MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,850MB			
		Windows NT 4.0選択時	アプリケーションなしモデル:約1,370MB Office 2000 Personalモデル:約1,850MB Office 2000 Professionalモデル:約1,910MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約2,220MB			
	光ディスク関連					
	CD-ROMドライブ		内蔵 最大40倍速			
CD-R/RWドライブ		内蔵 読み込み: CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み: CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速				
インタフェース	ディスプレイ					
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)ミニD-sub15ピン				
		デジタルRGB				
	シリアル		最大115,200bps、D-sub9ピン			
	パラレル		D-sub25ピン			
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)			
	サウンド関連					
	入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db			
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン6db			
	出 力	ヘッドホン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)			
		ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)			
通信関連						
LANボード		RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能				
FAXモデムボード		電話回線用モジュラーコネクタ、電話機能用モジュラーコネクタ				
入力関連						
PS/2 109キーボード		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続				
テンキー付きPS/2小型キーボード						
USB109キーボード		キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続				
USB小型キーボード						
USB98配列キーボード						
PCIスロット[空き]		2スロット(ハーフサイズ×2)1、(SCSIインタフェースボード搭載時はハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)1				
ファイナルベイ	3.5型ベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)0				
	内蔵3.5型ベイ[空き]	1スロット(ハードディスクドライブで占有済)0				
	5型ベイ[空き]	1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブで占有済)0				
カレンダー時計	電池によるバックアップ					
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」、「pcAnywhere 9.0 EX」 「CyberAccess」標準添付				
	障害・構成管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、OFF state Alert II機能				
	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーファカバーオープン検知、 セキュリティハードディスク対応				
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応				
	温湿度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)				
消費電力	本体標準構成時	約29W(最大58W)				
	省電力時	約19W以下				
	エネルギー消費効率	R区分 0.010	R区分 0.012	R区分 0.013		

機種名		MA86T/C	MA73T/C	MA66T/C
外形寸法	本体	316(H)×320(D)×86(W)mm(スタビライザ(縦置き台)含まず)、 316(H)×320(D)×155(W)mm(スタビライザ(縦置き台)含む)		
	キーボード			
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm		
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm		
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm		
質量	本体	約6.9Kg		
	キーボード			
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg		
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	USB小型キーボード	約1.0Kg		
	USB98配列キーボード	約1.1Kg		



MA56H/C、MA56H/Z、MA56H/L 本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA56H/C	MA56H/L	MA56H/Z (NetPCモデル)
CPU	CPU種別	Intel® Celeron™ プロセッサ		
	クロック周波数	566MHz		
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	128KB	
	システムバス	66MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大512MB DIMMスロット×2		
	ディスプレイキャッシュ	4MB		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから8~11MB占有、表示領域として使用されるのは一部)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810E Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ×1		_____
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセクション内容により異なります		
	Windows 2000選択時	アプリケーションなしモデル:約1,260MB		
		Office 2000 Personalモデル:約1,540MB Office 2000 Professionalモデル:約1,560MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,850MB		
	Windows NT 4.0選択時	アプリケーションなしモデル:約1,370MB		
		Office 2000 Personalモデル:約1,850MB Office 2000 Professionalモデル:約1,910MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約2,220MB		
光ディスク関連				
CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速			
CD-R/RWドライブ	内蔵 読み込み: CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み: CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速		_____	
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(T.MDS)、DFP20ピン		
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db		
	ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
出 力	ヘッドホン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)		
	ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)		

機種名		MA56H/C	MA56H/L	MA56H/Z(NetPCモデル)
インタフェース	通信関連			
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		
	入力関連			
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
	テンキー付きPS/2小型キーボード			
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
USB小型キーボード				
USB98配列キーボード				
保守用FDDコネクタ				管理者用外付けFDDドライブを接続
PCIスロット[空き]		2スロット(ハーフサイズ×2)【2】(SCSIインタフェースボード搭載時は、ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)で占有済)【1】)		2スロット(ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(保守用FDDコネクタで占有済)【1】)
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)【0】		
	内蔵3.5型ベイ[空き]	1スロット(ハードディスクドライブで占有済)【0】		
	5型ベイ[空き]	1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブで占有済)【0】		
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」、「pcAnywhere 9.0 EX」、「CyberAccess」標準添付(MA56H/Lは「CyberAccess」のみ標準添付)		
	障害・構成管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視		SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知(MA56H/Lは使用不可)		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時	約29W(最大58W)		約28W(最大57W)
	省電力時	約20W以下		約19W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.016		R区分 0.015
外形寸法	本体	316(H)×320(D)×86(W)mm(スタビライザ(縦置き台)含まず) 316(H)×320(D)×155(W)mm(スタビライザ(縦置き台)含む)		
	キーボード			
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm		
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm		
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm		
USB98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm			
質量	本体	約6.9Kg		約5.7Kg
	キーボード			
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg		
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg		
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	USB小型キーボード	約1.0Kg		
USB98配列キーボード	約1.1Kg			



MA70J/S、MA55J/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA70J/S	MA55J/S	
CPU	CPU種別	Intel® Pentium® IIIプロセッサ		
	クロック周波数	700MHz	550MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	256KB	512KB
	システムバス	100MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大512MB DIMMスロット×2		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウインドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 5~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
		出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセレクション内容により異なります	
		Windows 2000選択時	アプリケーションなしモデル:約1,260MB Office 2000 Personalモデル:約1,540MB Office 2000 Professionalモデル:約1,560MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,850MB	
	Windows NT 4.0選択時	アプリケーションなしモデル:約1,370MB Office 2000 Personalモデル:約1,850MB Office 2000 Professionalモデル:約1,910MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約2,220MB		
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速		
	CD-R/RWドライブ	内蔵 読み込み: CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み: CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速		
	リムーバブルディスク関連			
	Zipドライブ	容量(1ディスクあたり)約100MB、IDEインタフェース(ATAPI)		
スーパーディスクドライブ	スーパーディスク(120MB)、3.5型フロッピーディスク読み込み可能			
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMD5)、DFP20ピン		
	シリアル			
	コネクタ1	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	コネクタ2	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入出力	入力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
出力		ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)	

機種名		MA70J/S	MA55J/S
インタフェース	通信関連		
	100BASE-TX/10BASE-T LANコネクタ	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能	
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ	
	入力関連		
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
	テンキー付きPS/2小型キーボード		
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
	USB小型キーボード		
	USB98配列キーボード		
PCIスロット [空き]		3スロット(フルサイズ×3(FAXモデムボードで占有あり)) [3]or [2]、(SCSIインタフェースボード搭載時はフルサイズ×2(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)、フルサイズ×1(FAXモデムボードで占有あり) [2]or [1]	
AGPスロット [空き]		1スロット(ウインドウアクセラレータボードで占有済 [0])	
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済 [0])	
	内蔵3.5型ベイ [空き]	2スロット(ハードディスクドライブで1スロットで占有済 [1]、(追加ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済 [0])	
	5型ベイ [空き]	2スロット(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブで1スロット占有済 [1]、(Zipドライブまたはスーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済 [0])	
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」,「CyberAccess」標準添付	
	障害・構成管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能	
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知	
環境条件	電源	AC100V ±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件	10 ~ 35 °C、20 ~ 80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約33W(最大165W)	約32W(最大165W)
	省電力時	約16W以下	
	エネルギー消費効率	R区分 0.016	R区分 0.019
外形寸法	本体	140(H)×394(D)×430(W)mm	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm	
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
質量	本体	約9.9Kg	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg	
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	USB98配列キーボード	約1.1Kg	



MA53H/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA53H/S		
CPU	CPU種別	Intel® Celeron™ プロセッサ		
	クロック周波数	533MHz		
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	128KB	
システムバス	66MHz(メモリバス:100MHz)			
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大256MB DIMMSロット×2		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから10~13MB占有、表示領域として使用されるのは一部)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート7~48KHz)、全二重対応、ソフトウェアサウンド機能			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
		出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセレクション内容により異なります	
		Windows 2000選択時	アプリケーションなしモデル:約1,260MB Office 2000 Personalモデル:約1,540MB Office 2000 Professionalモデル:約1,560MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,850MB	
	Windows NT 4.0選択時	アプリケーションなしモデル:約1,370MB Office 2000 Personalモデル:約1,850MB Office 2000 Professionalモデル:約1,910MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約2,220MB		
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速		
	CD-R/RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速		
	リムーバブルディスク関連			
	Zipドライブ	容量(1ディスクあたり)約100MB、IDEインタフェース(ATAPI)		
スーパーディスクドライブ	スーパーディスク(120MB)、3.5型フロッピーディスク読み込み可能			
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMD5)、DFP20ピン		
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	MIDI/Joystick	D-sub15ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db	
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
	出力	ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)	
	通信関連			
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ			

機種名		MA53H/S
インタフェース	入力関連	
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続
	テンキー付きPS/2小型キーボード	
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	USB小型キーボード	
USB98配列キーボード		
PCIスロット [空き 1]		3スロット(フルサイズ×2、ハーフサイズ×1(LANポートまたはFAXモデムボードで占有済)) [2]、(SCSIインタフェースボード搭載時はフルサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)、ハーフサイズ×1(LANポートまたはFAXモデムボードで占有済)) [1]
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済) [0]
	内蔵3.5型ベイ [空き]	2スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済) [1]、(追加ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [0]
	5型ベイ [空き]	2スロット(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブで1スロット占有済) [1]、(Zipドライブまたはスーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [0]
カレンダー時計		電池によるバックアップ
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」,「CyberAccess」標準添付
	障害・構成管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPUファン監視
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度条件	10 ~ 35、20 ~ 80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体標準構成時	約45W(最大165W)
	省電力時	約20W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.065
外形寸法	本体	140(H)×394(D)×430(W)mm
	キーボード	
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm
	USB98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm
質量	本体	約9.7Kg
	キーボード	
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg
	USB109キーボード	約1.2Kg
	USB小型キーボード	約1.0Kg
	USB98配列キーボード	約1.1Kg



MA86T/M、MA66T/M本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA86T/M	MA66T/M	
CPU	CPU種別	Intel® Pentium® IIIプロセッサ		
	クロック周波数	866MHz	667MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	256KB	
システムバス	133MHz(メモリバス:800MHz)			
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大256MB RIMMスロット×2		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	nVIDIA社製Vanta™搭載(AGP対応)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセレクション内容により異なります		
	Windows 2000選択時	アプリケーションなしモデル:約1,260MB Office 2000 Personalモデル:約1,540MB Office 2000 Professionalモデル:約1,560MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,850MB		
	Windows NT 4.0選択時	アプリケーションなしモデル:約1,370MB Office 2000 Personalモデル:約1,850MB Office 2000 Professionalモデル:約1,910MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約2,220MB		
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速		
	CD-R/RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROMは最大32倍速、CD-RWは最大20倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速		
	リムーバブルディスク関連			
	Zipドライブ	容量(1ディスクあたり)約100MB、IDEインタフェース(ATAPI)		
スーパーディスクドライブ	スーパーディスク(120MB)、3.5型フロッピーディスク読み込み可能			
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(T.MDS)、DFP20ピン		
	シリアル			
	コネクタ1	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	コネクタ2	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	MIDI/Joystic	D-sub15ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入 力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大100mVrms、ゲイン20db	
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン6db	
	出 力	ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)	

機種名		MA86T/M	MA66T/M
インタフェース	通信関連		
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能	
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ	
	入力関連		
	PS/2 109キーボード テンキー付きPS/2小型キーボード USB109キーボード USB小型キーボード USB98配列キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続 キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
PCIスロット [空き]		5スロット(フルサイズ×4、フルサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)) [4]、(SCSIインタフェースボード搭載時はフルサイズ×3、フルサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)、フルサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済) [3]	
AGPスロット [空き]		1スロット(アクセラレータボードで占有済) [0]	
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	2スロット(フロッピーディスクドライブで占有済) [1]	
	内蔵3.5型ベイ [空き]	3スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済) [2]、(追加ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [1]	
	5型ベイ [空き]	2スロット(CD-ROMまたはCD-R/RWドライブで1スロット占有済) [1]、(Zipドライブまたはスーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済) [0]	
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」、「pcAnywhere 9.0 EX」 「CyberAccess」標準添付	
	障害・構成管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能	
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知、セキュリティハードディスク対応	
環境条件	電源	AC100V ±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	湿度条件	10~35%、20~80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約39W(最大234W)	
	省電力時	約29W以下	
	エネルギー消費効率	R区分 0.015	R区分 0.019
外形寸法	本体	447(H)×447(D)×175(W)mm	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm	
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
質量	本体	約13.6Kg	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg	
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
USB98配列キーボード	約1.1Kg		

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピーターの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置	
	適用回線	加入電話回線	
	同期方式	半二重調歩同期方式	
	通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注	
	通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2	
	変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps	
	送信レベル	-10~-15dBm(出荷時-15dBm)	
	受信レベル	-10~-40dBm	
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)	
	データモデム機能	適用回線	加入電話回線
同期方式		全二重調歩同期方式	
通信速度		送受信:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ:56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33333/ 32000/30667/29333/28000bps 注	
通信規格		K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21	
変調方式		TCM: 56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33600/ 33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400/1200bps FSK: 1200/300bps	
エラー訂正		ITU-T V.42(LAPM)MNP class4	
データ圧縮		ITU-T V.42bis MNP class5	
送信レベル		-10~-15dBm(出荷時-15dBm)	
受信レベル		-10~-40dBm	
制御コマンド		HayesATコマンド準拠	
NCU機能		適用回線	加入電話回線
		ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
	NCU形式 注	AA (自動発信 / 自動着信型) MA (手動発信 / 自動着信型) MM (手動発信 / 手動着信型) AM (自動発信 / 手動着信型)	
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)	

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

ATコマンド

ATコマンドについては、『ATコマンド』([ここをクリック](#))をご覧ください。

割り込みレベル・DMAチャンネル

工場出荷時の割り込みレベルは、次の通りです。

2000... Windows 2000の場合

割り込み優先 順位	割り込みデバイス			
	MA86T/C、MA73T/C、 MA66T/C、MA56H/C、 MA56H/Z、MA56H/L	MA70J/S、 MA55J/S	MA53H/S	MA86T/M、 MA66T/M
IRQ00	カウンタおよびタイマ			
IRQ01	PS/2接続キーボード			
IRQ03	(空)			
IRQ04	シリアルポートA			
IRQ05	(空)			
IRQ06	フロッピーディスクドライブ			
IRQ07	パラレルポート			MIDIデバイス
IRQ08	リアルタイムクロック			
IRQ09	USB/LANまたは FAX/サウンド/ACPI- Compliant System/SMBus Controller	USB/LANまたは FAX/グラフィック/ ACPI-Compliant System	USB/LANまたは FAX/サウンド/SMBus Controller	USB/LANまたは FAX/サウンド/ ACPI-Compliant System/SMBus Controller
IRQ10	(空)			
IRQ11	(空)			
IRQ12	PS/2接続マウス			
IRQ13	数値演算コプロセッサ			
IRQ14	プライマリIDE			
IRQ15	セカンダリIDE			

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、BIOSのシリアルポートAの設定を変更してIRQ04を解放してください。

NT..... Windows NT 4.0の場合

割り込み優先 順位	割り込みデバイス			
	MA86T/C、MA73T/C、 MA66T/G、MA56H/C、 MA56H/Z、MA56H/L	MA70J/S、 MA55J/S	MA53H/S	MA86T/M、 MA66T/M
IRQ00	カウンタおよびタイマ			
IRQ01	PS/2接続キーボード			
IRQ02	割り込みコントローラ			
IRQ03	空き	シリアルポートB		
IRQ04	シリアルポートA			
IRQ05	(空き)	LANまたはFAX	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ			
IRQ07	パラレルポート			
IRQ08	リアルタイムクロック			
IRQ09	サウンド(シェア)	USBおよび サウンド(シェア)	USB	LANまたはFAX/ サウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX		サウンド	グラフィック
IRQ11	USB	グラフィック		USB
IRQ12	PS/2接続マウス			
IRQ13	数値演算コプロセッサ			
IRQ14	プライマリIDE			
IRQ15	セカンダリIDE			

IRQ03、IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、BIOSのシリアルポートA、シリアルポートBの設定を変更してIRQ03、IRQ04を解放してください。

参照 「PART2 システム設定」 「Advancedの設定」の「I/O Device Configuration」(P.116)、MA53H/Sの場合は「PART3 システム設定 (MA53H/Sの場合)」 「Peripheral Setupの設定」(P.156)

工場出荷時のDMAチャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ幅	システムリソース
0	8または16ビット	(空き)
1	8または16ビット	(空き)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空き)
4		DMAコントローラ
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

省スペース型のスーパーディスク搭載モデルは、「(空き)」になります。

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠ 注意



感電注意

お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



発火注意

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起り、火災の原因となります。

本体

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

本体の内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先 『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネス』でお使いのお客さまへ～または『NEC PC あんしんサポートガイド』

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。



フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブ、クリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。「スーパーディスクドライブのクリーニング」(P.205)

キーボード

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先

『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネス』でお使いのお客さまへ～または『NEC PC あんしんサポートガイド』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

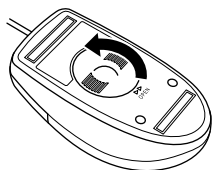
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。「マウスのクリーニング」(次ページ)

- ✓ **チェック!!**
- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

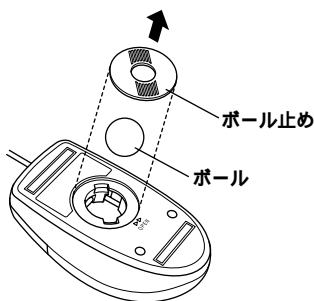
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4~6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

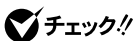
7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります(このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けしないでください)



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定



チェック!!

- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

スーパーディスクドライブのクリーニング

スーパーディスクドライブでフロッピーディスクを使用していると、ヘッドが汚れ、読み書き時にエラーが発生する場合があります。万一、ご使用中にエラーが発生した場合には、スーパーディスクドライブ専用のクリーニングキットを使用してください。

推奨クリーニングキット

イメーション株式会社製:LS-120HCL

フロッピーディスクドライブ用のクリーニングディスクなどを使用すると、ヘッドが摩耗し、障害を招く場合がありますのでご注意ください。



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate

(Windows 2000 Professional /
Windows NT 4.0セレクトブルモデル)

このマニュアルは再生紙(古紙率:表紙50%、
本文100%)を使用しています。

808-877675-164-A

初版 2000年5月

NEC

P